

建築教育ニュース

2001. 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長挨拶	会 長	原田 昭	1
2. 平成12年度事業および会計（決算）報告	事 務 局		3
3. 平成13年度事業計画・会計（予算）および役員名簿	事 務 局		5
4. 平成13年度総会・研究協議会報告	十和田工高	岩城 伸行	9
5. 夏期研究協議会に参加して	金沢市立工高	大野 元義	12
6. 計画分科会報告	主査 市川工高	江口 敏彦	15
7. 製図分科会報告	主査 市川工高	菊池 貞介	19
8. 構造分科会報告	主査 葛西工高	大久保 健	23
9. 施工分科会報告	主査 日工大付東京工高	内藤美雪丸	27
10. 製図コンクール運営委員会報告	委員長 関東第一高	塩澤 泰	30
11. 資格取得推進委員会報告	委員長 大宮工高	長島 佳久	41
12. 北海道の高等学校における建築教育の概要	函館工高	対馬 誠	43
13. 茨城県の工業高等学校建築教育の現況	土浦工高	田中 亨	46
14. 山梨県の工業高等学校建築教育の現況	北富士工高	佐野 喜彦	48
15. 静岡県の工業高等学校建築教育の現況	浜松工高	柳原 正人	50
16. 事務局ニュース・報告	事務局長 墨田工高	小沢 宏	52

あとがき

1. 東日本建築教育研究会 会長挨拶

東京都立墨田工業高等学校長

原 田 昭

第51回東日本建築教育研究会青森大会は、文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官佐藤義雄様、青森県教育委員会教育長佐藤正昭様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、盛大に挙行できましたことを、心から御礼申し上げます。

さて、今年度、全国工業高等学校長協会では、2つの事業を立ち上げました。同協会工業教育理念推進委員会委員長として、その事業を推進してきましたので、概要を説明させていただきます。

1 第1回高校生ものづくりコンテスト全国大会

全国工業高等学校長協会（高間伸一理事長）主催の第1回高校生ものづくりコンテスト全国大会が、平成13年8月18日（土）、東京都立江戸川技術専門校で開催されました。

開催にあたっては、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、林野庁、東京都産業労働局、東京都教育委員会をはじめ、関係諸機関から後援をいただきました。

工業高校は、これまで、一貫して、ものづくり教育を大切に、推進してきました。そして、我が国の基幹的な産業である製造業に多くの実践的技術者を輩出し、国の存立基盤を形成する重要な経済的・社会的役割を果たしてきました。

しかし、年々、若者の製造業離れが進み、ものづくりの技術・技能の継承が危ぶまれています。我が国の持続的発展を維持するためには、産業を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若い技術・技能者を育成することが重要な課題です。

そこで、各工業高校で取り組んでいるものづくりの学習を、各県大会、そして、ブロック大会へと高め、さらに、全国大会へと発展させ、全国の工業高校生の代表が、一同に会してものづくりに取り組み、技術・技能を競い合う大会を、今年度はじめて開催するに至りました。

こうして、工業高校の充実・振興を図るとともに、人々のものづくりへの関心を高め、技術・技能を尊重する社会的気運の醸成を図っていきたくと考えています。本大会に参加した高校生が、将来、技能オリンピックで活躍することが、私たちの大きな夢です。

大会は、全国から地区大会を勝ち抜いた合計64名の高校生が、4系統5部門（機械系・旋盤作業、電気系・電気工事、電子系・電子回路組立、化学系・化学分析、建設系・木材加工）の競技に、2時間半内の作品完成をめざし、取り組みました。

競技が始まると、各会場は静まりかえり、機械と工具の音が響くなかで、一心に課題に

取り組む選手とそれを見守る先生・保護者等各々の緊張した空気が漂っていました。選手が、真剣な表情で課題に取り組む姿は、来賓の方々や応援の人たちにもさわやかな感動を与えてくれました。

競技は、さすがに、各地区の代表の選手が、本大会に備えて準備・研鑽を積まれてきただけのことがあり、技術・技能的にすぐれ、レベルの高い内容でした。

各部門の審査委員は、生徒の進学・就職先でもある大学の教授・企業の技術者の方々にお願ひしました。

なお、東日本建築教育研究会施工分科会の有志の先生方のご尽力で、7月22日（日）、ものづくりコンテスト木材加工部門関東大会を実施することができました。猛暑の中、会場の埼玉県立大宮技術専門校には、13校21名の生徒が参加し、白熱した競技が繰り広げられました。また、全国大会を契機に、今年度、14の都県で予選会が実施されるなど、ものづくりの底辺が、急速に広がってきています。

2 ジュニアマイスター顕彰制度

専門的に優れた知識・技術・技能を修めた優秀者には、3年間の専門教育に自信と誇りが持てるように顕彰することが大切であり、さらに高度な知識・技術・技能の習得に向け、精進するよう励ますことが重要であると考え、顕彰制度を設けました。

大会当日、顕彰認定委員会を開き、特に優れた141名に「ジュニアマイスターゴールド」、552名に「ジュニアマイスターシルバー」が、高間理事長から授与されました。

なお、両事業の詳細については、全工協会「工業教育」10月号に掲載されていますので、ぜひ、ご参照ください。

工業高校卒業者の進路は、ますます多様化しています。全工協会の新しい両事業が、工業高校生の進路指導の改善に役立つとともに、工業高校の活性化につながることを願うものです。

2. 平成12年度 事業報告

1 総会・研究協議会の実施

期 日 平成12年7月26日(水)～27日(木)

会 場 鬼怒川温泉「ホテルニュー岡部」

〒321-2522 栃木県藤原町大原1400 TEL 0288-77-2611

1) 総会(7月26日)

2) 創立50周年記念式典

3) 記念講演会 演題「世界文化遺産 日光東照宮」

講師 日光東照宮 総務部長 高藤 晴俊氏

4) 夕食会(教育懇談会)

5) 研究協議Ⅰ(分科会/7月27日):製図・計画・構造・施工

6) 研究協議Ⅱ(全体会):各分科会報告(各分科会主査)

7) 研究視察 日光「輪王寺大猷院・神橋補修工事」

2 夏期研究協議会(施工分科会主催)

内 容 「クレーン特別教育講習会」

期 日 平成12年8月7日(月)～8日(火)

会 場 石川島技術教習所

神奈川県綾瀬市小園720 TEL 0467-78-7741

参加者 45名

3 CAD講習会(全国工業高等学校長協会夏季講習会)

企業と共催で実施

1) 建築汎用CAD実践セミナー

期 日 平成12年8月23日(水)

会場及び共催企業 (株)インフォマティックス

東京都品川区北品川1-8-11 品川KYビル

参加者 6名

2) 建築CAD体験セミナー

期 日 平成12年8月24日(木)及び25日(金)各回1日

会場及び共催企業 (株)構造システム

東京都文京区関口1-24-8

参加者 13名

4 理事会・委員会等の開催

会の構成

1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催予定

2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催予定

3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・分会主査・事務局長・会計で年6回開催予定

4) 各 委 員 会 分科会・委員会の長の召集により開催

分科会及び委員会の委員名簿は別紙参照

5) 刊 行 物

①建築教育ニュース2000年号(11月発行)

②会員名簿(7月発行)

③各種参考書

5 コンクール・作品展等...別途委員会より報告

第19回製図コンクール

第5回CAD作品展

6 その他 関係諸団体との連絡調整

平成12年度 会計決算報告

会長 原 田 昭
 会計 事 務 局

下記の通り御報告致します

1. [収 入 額]

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	930,000	930,000	0	155校分 (6,000円×155校)
雑 収 入	50,204	50,403	199	全工協助成金、銀行利息
印 税	200,000	412,579	212,579	基礎問題、図集、法規学習ノ ト、建築施工技術者テキスト
繰 越 金	340,796	340,796	0	
合 計	1,521,000	1,733,778	212,778	

2. [支 出 額]

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要	
1) 事 業 費	1,120,000	950,920	169,480		
内 訳	総 会 費	400,000	230,520	169,480	協議会補助、本部経費等
	資 料 費	260,000	260,400	-400	資料、ニュース印刷費等
	講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会 (施工) 補助
	出張補助費	120,000	120,000	0	西日本、北海道出張補助
	分科会費	280,000	280,000	0	4 分科会=@60,000×4、 1 委員会=@40,000
2) 運 営 費	350,000	344,823	5,177		
内 訳	役員会議費	30,000	30,000	0	常任理事会・主査会等
	通 信 費	150,000	144,823	2,322	総会通知、ニュース発送等
	雑 費	20,000	20,000	0	事務用品代
	事 務 費	30,000	30,000	0	事務局運営費
	名簿費	120,000	120,000	0	名簿作成費
3) 予 備 費	51,000	0	51,000		
4) 合 計	1,521,000	1,295,743	225,257		

3. [差引残高] 1,733,778 - 1,295,743 = 438,035 収入増 212,778

4. [次年度繰越] 438,035 支出減 225,257

会計監査の結果、収支・帳簿等相違ないことを認めます。

平成13年3月31日

会計監査 角 田 勝 男
 大 橋 正 俊

3. 平成13年度 事業計画

1 総会・研究協議会の実施

期 日 平成13年7月26日(木)～27日(金)
会 場 古牧温泉「古牧第三・第四グランドホテル」
青森県三沢市三沢駅南 TEL 0176-51-1111

- 1) 開会式
- 2) 総会
- 3) 研究協議Ⅰ(分科会)
- 4) 夕食会(教育懇談会)
- 5) 研究協議Ⅱ(研究発表及び分科会報告):製図・計画・構造・施工
- 6) 講評
- 7) 閉会式
- 8) 研究視察(三内丸山及び渋沢公園)

2 夏期研究協議会(構造分科会主催)

内 容 「構造設計計算プログラムの活用実習」
期 日 平成13年8月7日(火)～8日(水)
会 場 東京都立葛西工業高等学校
参加者 51名

3 CAD講習会(全国工業高等学校長協会夏季講習会)

企業と共催で実施
1) 建築汎用CAD実践セミナー....実施済
期 日 平成13年8月23日(木)・24日(金)・各回1日
会場及び共催企業 (株)インフォマティックス(東京都品川区)
参加者 7名
2) 建築CAD体験セミナー....実施済
期 日 平成13年8月21日(火)
会場及び共催企業 (株)構造システム(東京都文京区)
参加者 14名

4 理事会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道県理事で総会開催日に年1回開催予定
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催予定
- 3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・分会主査・事務局長・会計で年6回開催予定
- 4) 各 委 員 会 分科会・委員会の長の召集により開催
分科会及び委員会の委員名簿は別紙参照

5) 刊 行 物

- ①建築教育ニュース2001年号(11月発行)
- ②会員名簿(7月発行)
- ③各種参考書

5 コンクール・作品展等

第20回製図コンクール 締切日 平成13年11月5日～12日
第6回CAD作品展 締切日 平成13年11月5日～12日
詳細及び申込用紙は4/1付文書にて各校に配布済

6 その他 関係諸団体との連絡調整

平成13年度 会 計 予 算

会長 原 田 昭
会計 事 務 局

1. [収 入 額]

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	912,000	152校分 (6,000円×152校)
雑 収 入	50,965	全工協助成金、銀行利息
印 税	400,000	基礎問題、図集、法規学習ノート、建築施工技術者試験テキスト
繰 越 金	438,035	平成12年度繰越金
合 計	1,801,000	

2. [支 出 額]

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	1,140,000	
総 会 費	400,000	総会補助、協議会補助、本部経費等
資 料 費	280,000	総会資料、ニュース印刷費等
講 習 会 補 助	60,000	夏季講習会(構造)補助
出 張 補 助 費	120,000	西日本、北海道出張補助
分 科 会 費	280,000	4分科会=@60,000×4, 1委員会=40,000
2) 運 営 費	370,000	
役 員 会 議 費	50,000	常任理事会・主査会等
通 信 費	150,000	総会通知、ニュース発送通信費等
雑 費	30,000	事務用品代
事 務 費	20,000	事務局運営費
名 簿 費	120,000	名簿作成費(不足分は広告費で支出)
3) 予 備 費	291,000	
4) 合 計	1,801,000	

平成13年度 役員名簿

- | | | | |
|----------|----------------------|--------------------------|-------|
| 1. 会長 | 東京都立墨田工業高等学校 | 校長 | 原田 昭 |
| 2. 副会長 | 青森県立十和田工業高等学校 | 校長 | 磯部 光宏 |
| | 関東第一高等学校 | 校長 | 吉村 正昭 |
| | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 松井 貞二 |
| | 神奈川県立小田原城北工業高等学校 | 教諭 | 大庭 孝雄 |
| 3. 事務局長 | 東京都立墨田工業高等学校 | 教諭 | 小沢 宏 |
| 4. 会計 | 東京都立墨田工業高等学校 | 教諭 | 遠藤 悟 |
| 5. 常任理事 | 原田 昭 (会長・墨田工) | 磯部光宏 (副会長・十和田工) | |
| | 吉村正昭 (副会長・関東第一) | 松井貞二 (副会長・教材委員長・蔵前工) | |
| | 大庭孝雄 (副会長・小田原城北工) | 菊池貞介 (製図主査・市川工) | |
| | 江口敏彦 (計画主査・市川工) | 大久保健 (構造主査・葛西工) | |
| | 内藤美雪丸 (施工主査・日工大付東京工) | 塩澤 泰 (製図コンクール運営委員長・関東第一) | |
| | 鈴木 健 (編集委員長・田無工) | 長島佳久 (資格取得推進委員長・大宮工) | |
| | 鈴木 隆 (全高建協・墨田工) | 小沢 宏 (事務局長・墨田工) | |
| | 遠藤 悟 (会計・墨田工) | 曾我亮二 (校長・前橋工) | |
| | 稲葉一八 (校長・岡崎工) | 対馬 誠 (北海道・函館工) | |
| | 増渕政幸 (栃木・宇都宮工) | 江原哲二 (群馬・藤岡工) | |
| | 西村文雄 (埼玉・川越工) | 野口道雄 (千葉・千葉経大附) | |
| | 池上信幸 (東京・蔵前工定) | 岩見立也 (東京・小石川工全) | |
| | 野村博美 (東京・小石川工定) | 米原良慈 (東京・墨田工定) | |
| | 高橋康宏 (東京・葛西工) | 本間正明 (東京・田無工) | |
| | 大間俊彦 (東京・関東第一) | 田辺 登 (昭和第一学園) | |
| | 遠藤 勇 (東京・日本工大付東京工高) | 遠山時幸 (東京・安田学園) | |
| | 千葉一雄 (東京・東工大附工) | 角田勝男 (神奈川・神奈川工) | |
| | 柳原正人 (静岡・浜松工) | 雨宮行光 (山梨・甲府工) | |
| 6. 都道県理事 | 北海道 対馬 誠 (函館工) | 北海道 山田幸誉 (小樽工) | |
| | 青森 岩城伸行 (十和田工) | 岩手 新里善徳 (久慈工) | |
| | 宮城 平 孝幸 (仙台二工) | 秋田 小玉 武 (秋田工) | |
| | 山形 白石信也 (米沢工) | 福島 内藤陸朗 (会津工) | |
| | 栃木 黒須光雄 (真岡工) | 群馬 寺林喜久一 (館林商工) | |
| | 埼玉 香山厚雅 (春日部工) | 茨城 田中 亨 (土浦工) | |
| | 千葉 野口道雄 (千葉経大附) | 東京 塩澤 泰 (関東第一) | |
| | 神奈川 角田勝男 (神奈川工) | 山梨 佐野喜彦 (北富士工) | |
| | 新潟 石川勝敏 (新潟工) | 長野 川俣 晃 (長野工) | |
| | 富山 安川省司 (富山工高) | 石川 干場 実 (珠洲実) | |
| | 福井 広田喜文 (武生工) | 静岡 柳原正人 (浜松工) | |
| | 愛知 黒宮弘行 (半田工) | 岐阜 本田悟志 (高山工) | |
| 7. 会計監査 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 大橋 正俊 |
| | 横浜市立鶴見工業高等学校 | 教諭 | 伊藤 彰人 |
| 8. 分科会委員 | | | |
| 1) 製図分科会 | 主査・菊池貞介 (市川工) | 角田勝男 (神奈川工) | |
| | 古賀昌之 (田無工) | 金井孝雄 (高崎工定) | |
| | 塩澤 泰 (関東第一) | 諏佐眞一 (蔵前工) | |
| | 福島 勝 (日工大付東京工) | 橋本政美 (昭和第一学園) | |
| | 筒井 斉 (向の岡工) | 加倉井砂男 (敬愛学園) | |
| | 遠藤 悟 (墨田工) | 岡田幸雄 (小山北桜) | |
| | 吉城 守 (大宮工) | 伊藤和生 (葛西工) | |
| | 小島 聡 (葛南工定) | | |
| 2) 計画分科会 | 主査・江口敏彦 (市川工) | 大間俊彦 (関東第一) | |
| | 大庭孝雄 (小田原城北工) | | |

- 大橋正俊 (蔵前工)
 荒木宏道 (館林商工)
 岩上成輝 (川崎総合科学)
 三野輪雄大 (春日部工)
 冨田眞理子 (蔵前工定)
- 3) 構造分科会：主査・大久保健 (葛西工)
 松井貞二 (蔵前工)
 雨宮行光 (甲府工)
 今井賢治 (藤岡工)
 沢野 茂 (葛西工)
 西村文雄 (川越工)
 益野英昌 (仙台第二工)
- 4) 施工分科会：主査・内藤美雪丸 (日工大付東京工)
 田島 昇 (大宮工)
 高橋康宏 (葛西工)
 田辺 登 (昭和第一学園)
 小池逸朗 (甲府工)
 丸山 悟 (葛西工)
 伊藤彰人 (鶴見工)
 網中正仁 (桐生工)
 峯 孝一 (京葉工)
9. 教材委員会：委員長・松井貞二 (副会長)
 大庭孝雄 (副会長)
 江口敏彦 (計画主査)
 内藤美雪丸 (施工主査)
10. 編集委員会：委員長・鈴木 健 (田無工)
 古賀昌之 (田無工)
 大間俊彦 (関東第一)
 伊藤和生 (葛西工)
11. 製図コンクール運営委員会：委員長・塩澤 泰 (関東第一)
 古賀昌之 (田無工)
 金井孝雄 (高崎工定)
 諏佐眞一 (蔵前工)
 筒井 斉 (向の岡工)
 遠藤 悟 (墨田工)
 吉城 守 (大宮工)
 小島 聡 (葛南工定)
- (計画分科会) 大間俊彦 (関東第一) 岩上成輝 (川崎総合科学) 新井澄江 (墨田工)
 (構造分科会) 沢野 茂 (葛西工) 池上信幸 (蔵前工定) 齊藤延夫 (宇都宮工)
 (施工分科会) 飴谷知久 (安田学園) 網中正仁 (桐生工) 小嶋計一 (宇都宮工)
12. 資格取得推進委員会：委員長・長島佳久 (大宮工)
 松井貞二 (副会長) 大庭孝雄 (副会長)
 小沢 宏 (事務局長) 菊池貞介 (製図主査)
 江口敏彦 (計画主査) 大久保健 (構造主査)
 内藤美雪丸 (施工主査) 鈴木 隆 (全高建協)
 高橋義治 (京葉工) 石井直樹 (高崎工)
13. 顧問及び参与
 1) 顧問 北島敬己 (元会長) 稲見辰夫 (前会長)
 2) 参与 佐藤 哲 (元副会長) 土田裕康 (前副会長) 山崎敏弘 (前副会長)
- 池田健司 (大宮工)
 成田仲生 (田無工)
 高崎和久 (神奈川工)
 新井澄江 (墨田工)
- 青柳 昭 (市川工)
 池上信幸 (蔵前工定)
 齊藤延夫 (宇都宮工)
 榎本吉晃 (安田学園)
 福住英毅 (神奈川工)
 稲垣弘太郎 (藤沢工)
- 堀口 武 (武蔵越生高)
 塩山 昇 (熊谷工)
 小嶋計一 (宇都宮工)
 千葉一雄 (東工大附工)
 佐藤克典 (神奈川工定)
 飴谷知久 (安田学園)
 片岡 等 (田無工)
- 菊池貞介 (製図主査)
 大久保健 (構造主査)
 小沢 宏 (事務局長)
- 遠藤 勇 (日工大付東京工)
 武田明広 (市川工)
- 角田勝男 (神奈川工)
 福島 勝 (日工大付東京工)
 菊池貞介 (市川工)
 橋本政美 (昭和第一学園)
 加倉井砂男 (敬愛学園)
 岡田幸雄 (小山北桜)
 伊藤和生 (葛西工)

4. 平成13年度 青森大会総会・研究協議会報告

青森県立十和田工業高等学校 岩 城 伸 行

平成13年度東日本建築教育研究会総会・研究協議会が7月26日～27日青森県三沢市古牧温泉渋沢公園「古牧第二・第三・第四・渋沢文化会館」にて、来賓・招待者・会員合わせて200名を越える参加者により盛会のうちに開催された。

1日目 午前中に理事会、午後から開会式が開催され、磯部光宏大会実行委員長、原田昭会長並びに青森県高等学校長協会会長、青森県高等学校教育研究会工業部会会長の挨拶があり、大会要項に従い文部科学省佐藤義雄教科調査官、花田隆則青森県教育次長の祝辞をいただいた。その後来賓紹介があり、休憩の後、佐藤義雄教科調査官より、「新教育課程の編成と建築教育の展望」と題する講演をいただいた。高等学校の改定のねらい、4本の柱、教育課程の構成、教科・科目の編成、総合的学習のねらい、配慮事項、教科「工業」の評価の観点及びその趣旨等々について、来るべく時代の工業教育の在り方を具体的に指摘した意義深いものであった。休憩の後、共通テーマである「21世紀を拓く建築教育」—高校建築教育再構築への取り組み—についてを基調とし、製図・計画・構造・施工の各分科会がそれぞれのサブテーマを持ち、熱心な協議がなされた。夕刻には、青森県教育庁橋本 都副参事より心温まる来賓を戴き盛大な教育懇談会が開かれ第1日目の日程を滞りなく終了した。

2日目 全体会において研究発表があった。文部科学省より平成11年から平成14年まで研究開発校として指定を受けた青森県立南部工業高校の高橋和雄先生の「社会の変化に対応した小規模校」について、同じく指定を受け研究に取り組んだ青森県立青森工業高校の蝦名博先生から「コース制を実施しての諸課題」についての研究発表があった。

南部工業高校では学校設定科目、地域連携、生徒の個性を生かす教育等について発表があった。特にテクノボランティア活動の単位認定に向けた学校設定科目の新設及び評価とその在り方等高校建築教育の再構築に向けた意気込みを感じた次第である。

続いて、各分科会の主査の先生方から協議内容のまとめと年間活動内容などについて報告があり、成田秀造青森県総合学校教育センター産業教育課指導主事から現今の教育キーワードである「生きる力、豊かな心」等を基調とした講評をいただいた。講評後すぐ閉会式に入り、原田昭会長より実り多い研究大会であったとの挨拶があり、次期開催地の東京都を代表して関東第一高等学校の吉村正昭校長より平成14年7月25日・26日に江戸川区総合区民ホール・関東第一高校を会場として実施の予定であり、多くの先生方の参加を呼びかけた。最後に磯部光宏大会実行委員長よりお礼の挨拶があり2日間の協議を終了した。午後の研究視察では三内丸山遺跡と古牧温泉渋沢公園の2コースに分かれ見学をし全日程を終了しました。参加者の皆様のご協力に心から感謝いたします。

第50回東日本建築教育研究会青森大会実施要項

期 日：平成13年 7月26日(木)～27日(金)

会 場：古牧温泉渋沢公園「古牧第二・第三・第四グランドホテル」

第1日目 7月26日(木)

理事会受付 9：30～10：20

理 事 会 10：30～12：00

会 員 受 付 12：00～12：50

1 開会式 13：00～13：50

(1) 開会のことば 青森大会実行副委員長

(2) 挨拶 青森大会実行委員長 磯部 光宏

東日本建築教育研究会会長 原田 昭

青森県高等学校長協会副会長 加賀 勝

青森県高等学校教育研究会工業部会会長 大桃 荘介

(3) 来賓挨拶 国立教育政策研究所教育課程研究開発部 佐藤 義雄

教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付

教科調査官

青森県教育委員会理事兼教育次長 花田 隆則

(4) 来賓紹介 社団法人全国工業高等学校長協会事務局長 小林 一夫

西日本工業高等学校建築連盟会長代理 八木 省三

社団法人青森県建設業協会会長 中野渡保雄

青森県建築士会三沢支部長 相場 博

青森県建築士事務所協会会長 高樋輝志郎

青森県総合学校教育センター産業教育課 成田 秀造

指導主事

(5) 閉会のことば 青森県大会実行副委員長

2 総会 14：00～15：20

(1) 開会のことば

(2) 議長選出

(3) 議事

1) 平成12年度事業報告

5) 平成13年度事業計画案

2) 平成12年度会計決算報告

6) 平成13年度予算案

3) 会計監査報告

7) その他

4) 役員改選

- 3 研究協議1 (分科会) 15:40~17:10
 共通のテーマ:「21世紀を拓く建築教育」
 —高校建築教育再構築への取り組み—
 製図分科会・計画分科会・構造分科会・施工分科会
- 4 教育懇談会 18:30~

第2日目 7月27日(金)

- 1 研究協議2 (全体会) 9:00~10:20
 (1) 研究発表 9:00~9:40
 I「社会の変化に対応した小規模専門高校」
 青森県立南部工業高等学校 教諭 高橋和雄
 II「コース制を実施してみたの諸課題」
 青森県立青森工業高等学校 教諭 蝦名 博
 (2) 分科会報告 9:50~10:20
- 2 閉会式 11:00~11:20
 (1) 閉会の言葉 青森大会実行副委員長
 (2) 会長挨拶 東日本建築教育研究会会長 原田 昭
 (3) 次期開催県代表挨拶 関東第一高等学校校長 吉村 正昭
 (4) 閉会の言葉 青森県大会実行委員長 磯部 光宏
- 3 諸連絡・昼食 11:20~12:00
- 4 研究視察 12:15~



5. 夏期研究協議会に参加して

金沢市立工業高等学校本科第二部 建築科 大野元義

平成13年度東日本建築教育研究会夏期研究協議会が、8月7日、8日の2日間、東京都立葛西工業高等学校において開催された。今年は、構造部会の担当で、パソコンを使っての「構造設計計算プログラムの活用実習会」という内容であった。

今回は、建築設計製図教科書「製図例8」商店設計の構造計算を題材とし、この課題を通じて、構造設計ソフトウェアの理解と使用法を学び、建築構造設計および課題研究などへの活用を目的として行われた。全体で、53名の参加者があり、本校から2名が出席した。我々は、前もって、計算した結果、少なくとも、一階の柱、梁が少し弱いのではないかという疑問を持ちながら参加した。

数年前、本校の室内プール（S造、一部RC造）建設の際、工事の監督からA4用紙の構造計画書を拝見した時、コンピュータを使用して計算され、印刷されていた事、そのページ数の多いことに非常に驚き、時代が激しく変化していることを痛感させられた。そこで、4月の初めにこの夏期研究協議会の案内があった時には、その項目を見てすぐに参加したいと思った。授業にその一端でも、とり入れる事ができれば、生徒達もより興味ある学習ができ、また、基本的な一端に触れる事で、卒業して社会にでた時にも多少は、役に立つのではないかと思った。

8月6日、出発の日この日は、石川県高等学校新教育課程説明会に参加していたので、それを終えて夜行寝台特急に乗り、早朝6時過ぎに東京駅に到着した。2人で同駅の開いていたうどん店で朝食を取り、それから寝台車のなかで地図を開いて相談していた通りに「総武線」、「都営地下鉄新宿線」を乗り継ぎ「一之江」駅に下車した。北陸は、この夏連日の猛暑でしたが、東京は雨上がりのすがすがしい朝でした。（我々が在京中台風に関わらなかった）時間には余裕があった。途中、3階建ての住宅が建つ一画があったので、ゆっくり見ながら、道路も広く取れて効率的な建て方だなどと思いつつ会場校に到着した。

8月7日（火） 研究会初日

東日本建築教育研究会副会長の挨拶、会場校長挨拶、講師、スタッフ5名紹介、日程概要の説明があり、その後、いよいよ一人一台コンピュータのスイッチを入れ、テキストを用いての活用実習会が始まった。設計製図室（CAD）はゆったりした空間で冷房完備。以下、構造計算用ソフトウェア「BUS-2.5」を用いた構造計算の概要を記す。

I. 設計（流れ）の概要

スタート——準備計算——応力計算——断面計算——合否検定エンド

II. 準備計算

①単位の設定（SI単位）（コンクリート強度 $21\text{N}/\text{mm}^2$ 、鉄筋SD295A）

- ②柱成の仮定（全階50cm角）「製図例8」よりも5cm大きく取る
- ③はりせいの仮定（地中ばり100cm、2階はり65cm、3、R階はり60cm）
- ④スパン、階高の入力（柱芯、はりせい中心間距離）
- ⑤使用材料の設定（主筋D19、D22、せん断補強筋D10、D13）変更可
- ⑥各階の伏図に柱形状番号、はり形状番号を配置する。
- ⑦壁の設定（カベ厚12cm、鉄筋D13、間隔200シングル配筋、雑壁の入力）
- ⑧床の設定（小ばりの設定、床スラブの設定、配置番号101～200、大床構造の配置番号201～300、スラブ厚15cm）
- ⑨風荷重の設定（東京23区内基準風速34m/sとし地表面粗度区分はⅢ）
- ⑩積雪荷重の設定（積雪の単位重量、最深積雪量、屋根勾配を入力）

8月8日（水） 研究会最終日

- Ⅲ. 応力計算（剛度増大率片側スラブ1.5、両側スラブ2.0、立体フレーム入力）
- Ⅳ. 断面計算（今回は、鉄筋量を自動的に算出する算定計算で行なう）
- Ⅴ. プリンター出力（算定計算からのはり、柱の鉄筋を断面にコピー）
- Ⅵ. 検定計算2（柱、はり主筋をD25として入力、再度許容応力度計算を実行）

「BUS2.5」による活用実習会は、午前中で終了した。時間内に、なんとか柱鉄筋、はり鉄筋の一覧表がプリントできた。さらに曲げモーメント図、変位図、重心—剛心図のプリントアウト（カラー）までしてもらった。私自身、コンピュータ操作に不慣れで何度も質問を繰り返す事態になったが、その都度、スタッフに助けられテキストを進める事ができた。親切丁寧な対応に感謝したい。

午後は研究協議として2名の先生方の発表があった。

初めに、「選択建築構造設計の実例報告」と題して東京都立葛西工業高等学校、沢野茂先生から、3年生の選択科目の建築構造設計（2時間続きの2単位）で「BUS2.5」の体験版を使用して商店設計の構造計算を行なった体験学習についての報告があった。生徒14名の反響もわりと良く、概ね楽しい授業となった。作業の進み具合にかなりの差ができ一人で担当するには大変である。速い生徒が遅い生徒に教える光景が随所にあって良かった。等々聞いて本校のCAD実習と感じが似ていると思った。次に、「法改正のポイント」と題して東京都立蔵前工業高等学校、池上信幸先生から、施行令86条積雪荷重に関する改正、積雪関連告示第1455号、施行令87条風圧力に関する改正について詳しく計算式を示して報告された。建物に作用する風荷重を地域の実況に応じてより実態に近い規定にするため、各地における平均風速の強さを表す指標である基準風速を国土交通大臣が定め、この基準風速から速度圧を算定する方法に改めた。地表面粗度区分によっても変わってくる。私の感じでは、低い建物の場合は、旧の式を使ってもあまり変わらないような気がする。発表された先生方、本当にご苦労様でした。今後、参考になることや気がついたことが沢山ありました。有難うございました。

コンピュータをある程度操作できる人ならば、このソフトは非常にやり易いのではないか。データの引き出しや結果を引き出すのに大変スムーズである。本校でもCAD実習との選択も考えられ、将来、出来れば、この構造計算プログラムを取り入れたい。しかし、より効果的なものにするには、構造力学の理解が必須である。このプログラムの基礎的な流れや全体像を把握するためにも力学の理解が必要であると思う。

この講習会を企画し、運営された諸先生方に深く感謝申し上げて、講習会に参加した感想レポートといたします。

6. 計画分科会報告

千葉県立市川工業高等学校 江口敏彦

計画分科会委員会では、おもに『建築法規学習ノート』の改訂作業、および今年度大会の共通研究テーマに沿って意見交換を重ね、活動してまいりました。以下に本年度の活動内容を報告いたします。

平成12年8月6日 委員に『建築法規学習ノート』、『建築の基礎問題』改訂依頼

平成12年9月8日 第1回委員会（蔵前工高）

① 栃木大会計画分科会報告

「計画実験の実施状況とこれからの在り方」について研究協議を行った。多くの学校で時間数が少なく、実施している項目が限られているが、これからの多様化する教育では幅広い内容を準備しておく必要がある。現在の教科書の内容を削減することはできないのではないか。

② 『建築の基礎問題』について 教材委員会に提出済み。

③ 『建築法規学習ノート』の改訂作業について

現在の教科書ではなく、法令集に合わせる。教科書の方向性が決まらなければ難しいので、教科書の改訂作業と並行して進め、11月初旬を目標とする。委員で原稿を交換してチェックし合う。

平成12年10月24日 第2回委員会（蔵前工高）

① 『建築法規学習ノート』と建築法規教科書との兼ね合いについて

教科書はかなり絞られた内容が、やわらかい表現で記述されている。それに対し学習ノートはかなり細かい内容にも踏み込んでおり、法令集に準じて変わったところを間違いなく変えていく必要がある。教科書は法令が変わった部分のみ変更している。増えた部分は最後にハートビル法が加わった程度

② 『建築法規学習ノート』の変更点について

ハートビル法、耐震改修法、品確法も加え、省庁改編に伴う省庁名、大臣名も変更する。また前回の法改正で変わったところも注意する。次年度も再検討が必要。

平成12年11月13日 教材委員会に原稿提出

平成13年3月6日 第3回委員会（蔵前工高）

① 『建築の基礎問題』、『建築法規学習ノート』改訂作業終了の報告。

② 平成13年度青森大会について

全体テーマ『21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—』計画分科会のテーマについて以下のような意見が出た。

週5日制に対応したカリキュラム（選択、くくり募集、総合学科など）。

全体のテーマはカリキュラムについてなのか、機構についてなのか。

アンケートをとるか、いくつかの学校に発表をお願いする。

他の分科会ではどのようなテーマとするのか。

以上の意見をふまえ、検討を続けることとした。

③ 平成14年度東京大会の予定報告。

平成13年 5月23日 第4回委員会（蔵前工高）

平成13年度青森大会について

計画分科会のテーマについて、次のような内容が検討された。

① 建築計画における新カリキュラムでの方向性

従来通りの工高、コース制・くくり募集の実施校、総合学科の高校など、それぞれの状況を伺いながら、利点・欠点を考え、さらに建築計画を含めた建築科の将来の方向性について探っていく。委員には各校の現状についてレポートを提出してもらおう。

② 課題研究を含めた計画実習の実践例

昨年度の参加校の中から、ユニークな計画実習を実施している高校をピックアップし、可能な学校に発表をしてもらう。また、日本工業大学付属東京工業高校で作成している実習の資料を提供してもらう。

平成13年 7月3日 第5回委員会（市川工高）

平成13年度青森大会について、計画分科会は以下のような方針で進めることとした。

① 計画分科会のテーマについて

『新カリキュラムへの展望と計画実習』

② 資料の構成について

計画分科会報告

委員から提出されたレポートを基に作成した各校の新カリキュラムでの方向性

東京工業高校の建築実習の手引きから計画実習に関連する項目を抜き刷りしたもの

③ 研究協議会の内容について

十和田工業高校より実習の実践例の発表

東京工業高校の実習内容・方法の説明

川崎総合科学高校よりカリキュラムに関する発表

平成13年 7月26日、27日 青森大会

テーマにより各校から発表・意見交換を行う。

近年の大会において、2単位履修の場合の指導内容（厳選に伴う内容の整理）や2級建築士試験受験に必要な用語について協議を行い、座学の授業を厳選しながら、一方では専門教育のレベルを維持していくための実践状況や苦心・工夫を会員各校から伺うことができました。また昨年度は、これからの計画実習は如何にあるべきかというテーマで、学習指導要領の改定を前に率直な意見交換を行い、十分な授業時数を確保することが難しくなる中、コース制の導入、座学と実習の連携、生徒の興味関心を引く個性的な授業の展開など、各校での様々な試みを伺い、今後の計画実習のあるべき方向性を見いだすヒントを得ることができました。

これまでの座学と実習に関する協議内容や昨年度協議会で出された宿題をふまえ、委員会では今回の分科会テーマをより総合的なものとするべきだと考え、『新カリキュラムへの展望と計画実習』としました。以下に協議の内容を要約いたします。

分科会研究協議では、まず大会事務局長を務められた岩城伸行先生に、十和田工業高等学校の実習について発表をいただきました。先生には多くの資料を基に、特に建築設備実

習について発表していただきましたが、十和田工高では7名全員の先生方で幅広い内容の実習を実践されており、全体のバランスもとれ、ローテーション通り進められているとのことでした。実験の施設設備を学校の付帯設備として設ける工夫なども伺うことができ、参加された先生方には、たいへん参考になる発表であったと思います。大会運営等で非常に御多忙な中、膨大な資料を準備していただき、また快く発表を御承諾いただいた岩城先生には心より感謝いたします。

引き続き日本工業大学付属東京工業高等学校に提供いただいた『建築科実習の手引き』を紹介しました。東京工業高校では各学年ごとに、実習用の資料を冊子として作成されており、今回はその中から計画実習に関連する項目について抜き取りさせていただき、先生方に配布することができました。昨年度の協議会で出た、「具体的な計画実習の実践例を示して、それをソフトの形でお互いに共有できないか」という宿題に、応えることができたのではないかと思います。東京工業高校の御厚意に感謝いたします。

次に計画分科会委員の岩上成輝先生に、川崎総合科学高等学校建設工学科のカリキュラムについて発表いただきました。川崎総合科学高校は2年次より建築・都市工学のコース選択制をとっており、1年次の授業で両コースの概要を理解することができ、進路選択をより深く考えることができるようです。しかし教育課程上、専門科目・製図・実習の時間が少なく、将来の教員配置にも不安があるとのことでした。時代を先取りした特色ある高校であるため、「開校以来10年の節目での現状を伺いたい」との質問も出され、集まった生徒の状況や進路状況などについて、成功した点・ややうまくいかない部分の説明がありました。新しい試みの中で、先生方は生徒のために何をやればよいか、深く考えておられるようです。

その後参加各校より現状や将来の方向性について報告や意見をいただきました。

- ・ 建築と土木のコース制をとっているが、業界の不況で就職先が少ない。進学希望者も落ち着かない。
- ・ 総合学科に近い建築デザイン科を設置しているが、専門教科の時間が少ない。
- ・ 専門教科の中で如何に選択科目を増やすか工夫している。建築科と普通科それぞれの思いがぶつかり、科目をどう調整していくかが問題となっている。
- ・ 設備工業科の中に設備技術コースと建築環境コースを設置し、魅力・特色ある学科づくりに取り組んでいる。1年次に学校設定科目『建設基礎』を設け、世界遺産のビデオなどを見せて関心を高めている。
- ・ 前回の改訂では各学校が試作を持ち寄ったが、今回は特色あるものをつくらなければならぬので、横のつながりがとれない。専門教科を増やそうにも普通科との調整が問題となり、戸惑いながら進めている。
- ・ コース制のため少人数で授業ができ、模型づくりなどにも取り組みやすい。
- ・ 選択科目を10単位以上としている。地元の大企業は科ではなく、工業の生徒をほしがっ

てる。土木科では公務員コースを設けており、出口がなければコースをつくるという意識改革も必要ではないか。

- ・1年次に系で募集し、コースに分かれる。大学の先生に授業をやってもらっている。
- ・1単位の専門科目が行事でつぶれるという問題が生じている。
- ・他科の科目が選択できるようなかたちも検討中である。
- ・学校が社会的な評価を受けるためには、生徒に何を与えられるかを考えなければならない。3年経てば2級建築士に合格できるようなシステムの確立や足で就職先を捜し出口を保証するために、職員の意識改革と行動力が重要である。
- ・進学コースは幅広い分野で学習が可能である。学力レベルに差があるので習熟度別学習も導入している。
- ・近未来構想委員会を設置し、生徒指導・学習指導・進路指導について検討を重ねている。基礎・基本とは何かが重要。座学・実習を減らし、課題研究を増やしている。
- ・学科改編が進み、科学技術高校（3部制の総合高校）となるため、詳細を検討中。
- ・くくり募集で1年次は科を限定せず、その後専門技術・総合技術・普通教科コースに分かれる。就職先が少なく、建築以外の進路を選択せざるを得ない生徒もいる。
- ・2期制で建築科は3コース制をとっている。出口がなかなか見つからない。
- ・実習を増やし、校舎改修のワークショップや福祉住環境コーディネーター試験にも取り組んでいる。地域に実践を知ってもらうことも重要ではないか。

参加された先生方の御報告や御意見は、今後の教育課程を考えるうえで、多くのヒントを与えてくれました。また分科会の在り方についても、これまでのような輪切りではなく、例えば資格取得などにテーマを絞り、分科会をこえた協議を行ってはどうかとの貴重な御意見もいただきました。計画分科会だけで考えられる問題ではありませんが、今後の宿題としたいと思います。

7. 製図分科会報告

千葉県立市川工業高等学校 菊池 貞介

前回の創立50周年栃木大会を経て、2001年の青森大会は広大な渋沢公園内の記念館を会場に多数の参加者を迎えて製図分科会を開くことができました。この場をお借りして開催県の関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

ここに昨年度からの分科会活動と大会の研究協議会概要を報告します。

◇委員会記録

00. 07～ 建築基礎問題集（市ヶ谷出版）の法規部分を委員で分担し、法規改正に関わる箇所等のチェックを行う。改正部分に該当した委員は、告示の取り扱いや条文解釈について市販の参考資料等もまだ出版されていない状況にあり大変苦勞した。科目「建築法規」の教材開発を専門に担当する組織の必要性を感じる機会となった。

00. 11～ 於 関東第一高校 製図コンクール運営業務に協力（開封／集計／一次審査／二次審査／賞状準備／返送作業／次年度への検討課題等）合計3回開催。

CAD作品展も併せて扱うためコンクール委員の増員を図ったが、限られた時間内であり業務が集中した。コンクール課題の見直しを行い、従来の課題に加えて課題4としてCADを用いた製図課題を設定した。ただし、CAD作品展はこれまでと同様にテーマを自由とし、新設のコンクール課題は一定条件の下でのCAD製図の取り組みを見るものとした。

01. 02. 20 於 関東第一高校

- ・青森大会について検討——例年、分科会の研究協議会に参加者が多く意見交換が限定されている反省点を確認。各校からの発言が少しでも増えるよう協議時間の延長を要望する。また改正された法規の扱いを正しく把握する必要があることから、講習会を開催県の青森県建築士会など関係の方にお問い合わせする案が出た。
- ・「建築法規」が独立科目としてあり、教科指導や教材開発など専門に検討するための「法規準備委員会」発足に向け委員の推薦をおこなった。塩澤先生にお問い合わせする。
- ・分科会委員改選——新委員 小島 聡先生 葛南高・定より、伊藤和生先生 葛西工より迎えることとなった。
- ・CAD講習会について——全工協共催継続事業として今年度も実施する。
- ・CAD製図作品展関係の要項を検討。
- ・分科会研究テーマについて

全体テーマ「21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—」を勘案するとともに前年度の栃木大会では、設計製図の設計部分についても話が出ているので、設計教育に重点を置いた分科会テーマとして、「自ら取り組ませるための設計製図Ⅱ」とする。今後重視されていくであろうキーワードとして「性能規定」「環境共生」「バリアフリー」「ハートビル」「CO₂削減」「エコロジー」などがあり留意する点をあげた。

01. 06. 28 於 関東第一高

- ・CAD講習会について——今年度も全工協共催として以下のように実施する。
8/23(木)、24(金)インフォマティクス 品川 2D・3D CAD/ピネラージュ
8/21(火)、22(水)構造システム 江戸川橋 DRA—CAD 3D
- ・今年度より製図コンクール課題にCAD製図が加わった点を併せて、製図コンクールとCAD製図作品展への出展呼びかけ活動を確認。
- ・青森大会研究協議会の委員研究報告資料作成について検討——設定テーマに対する分科会資料の要点整理として以下のような事項を確認した。

○大学での建築教育の見直しが続いている。

教育指導方法→カリキュラムの見直し

技能と技法

設計者としての態度と新しい価値観

○建築学会の動き

建築資格の国際的評価

初等教育への「建築学」のアプローチ

○義務教育での建築教育

指導案に「建築美と比例」「もし自分が建築家だったら…」などの建築に関する題材が見られる

では工高建築教育の中で何が必要とされるのか…？ならばどのような観点、題材、カリキュラム、指導法等で建築設計製図を扱うのか…？の問いかけと、新教育課程のねらいをどの部分で触れているのかを記述する旨を確認する。

また、触れてみたい点として次のような内容を提示した。

15才からの建築設計製図教育 そのメリット

生徒の実態で内容（題材）の重点化が可能であること

「特色ある教育」として——設計に必要な要素「福祉住環境」の取り扱い／車椅子で公共建築物を体験的調査している事例／介護用設備機器の視察／生徒の福祉住環境コーディネーターへの挑戦／学校設定科目「福祉住環境」

「総合的な学習の時間」を1～2単位設定しインターンシップで設計現場の体験
実習・課題研究の班分けをコース制に近づけ設計製図を主体的に学ぶ道の用意
座学科目の単位数を減じ、実習・課題研究の単位数を増加させる

2級建築士、施工管理技士を近い目標に置き建築の基礎基本を考える
建築設計教育の社会的な意義を臆することなく展開すること

インターネットを用いた意見交換から設計教育へ
グループ設計の意義と指導

以上のような観点をあげつつ各委員の事例・研究報告をまとめ、大会にて配布した。

◇青森大会研究協議会 製図分科会概要

司会・進行：塩澤（関東第一高）、角田（神奈川工）／記録：遠藤（墨田工）

主題と資料の説明（菊池、市川工）のあと事例報告に移る。

大学主催コンペの取り組みをとおして生徒の意欲をかき立てている弘前工・長内先生の報告では、競技設計コースを設定し生徒が集まり指導教員の負担増があらわれたことや、作品の質が高まるにつれ指導者の主観が色濃くなるといった出席者の多くが共感する視点が示された。これを受け、2・3年生80名を二人の教員が夏期休業中のほとんどを使って指導している例が上げられ（岩辺、静岡工）、エスキスの徹底した指導が効果を上げている様子が報告されたが、コンペの締め切り期日に大きく影響を受けている事実も明らかにされた。

次に、協誌会資料で紹介している中から、1年生全員にノートPCを購入させ従来の手書き製図からフリーハンド製図やCAD製図に移行させるとともに設計製図の環境整備に新しい観点を示した事例（関東第一高・塩澤）が上げられた。この点に関しては、作品の評価と2級建築士試験や手書き製図の対応についての質問（那須清峰、斉藤）があり、生徒の自己採点法を取っていること、手書き製図は製図コンクールを含め選択制で実施している旨の回答があった。また、指導目標をCAD検定に置いているかの有無に関して質問（仙台工、佐竹）が出され、関連して会場全体にCAD検定実施校の確認がなされた。実施校の例では概ね好評にあることが報告された。

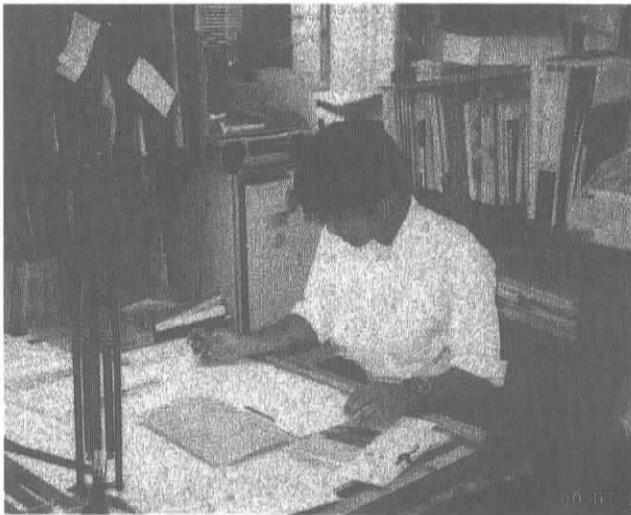
一方、CAD製図を視野に入れながらフリーハンドの図を書くことに注目する意見が出され（小松工、押野）、日本建築史の講義とスケッチ演習を連続して指導している事例が上げられた。また、1年次に4時間連続の製図指導により2級模擬試験の実施まで実技向上が可能である報告（前橋工、小島）では、構造など座学を2・3年次に移す実技先行型の利点が紹介された。これに続けて、忍耐強さを目標として手書き製図を積極的に指導している事例（福島工、管野）やスケッチから発表会まで段階を追った課題設定で効果を上げている例が上げられた。

この後、平成15年度以降のカリキュラムに関して各校の状況報告のお願いと、情報交換の場としてホームページの開設を検討していることが司会より告げられ閉会した。

*

最初に取り上げられた設計競技の指導事例には、その過程に指導教員との創造的な対話が幾度も重ねられ、生徒自身に生まれてくる大切なものがあることを改めて提示したように思われる。また、フリーハンドのスケッチも、時間をかけて指導している点で自発性を導き出している。手書き製図指導の困難さを受け止めて新たな教材開発に進んできたが、熱意と時間をかけた指導により手書き製図の向上を図っている事例は、建築教育に不易なものがあることを証明したように思う。

協議会のテーマ設定段階では、生徒の自主的・自発的な設計製図教育のあり方を模索する意見交換を想定し、そのため製図分科会の各委員の事例報告には、生徒の興味関心を高めようとする動機付けの部分に着目した教材開発や指導展開の具体例を提示した。実際の協議会場では、限られた時間の枠があるため、話題の展開にも自ずと制限があり歯がゆさを感じられた方も少なくないように思われたが、司会・進行の御苦勞により、どうか当初の目標にかなうヒントが引き出せたのではないだろうか。これを契機に各校で少しでも改善が進められることを念じる次第である。



設計事務所での現場実習

「現場を体験しよう！」一本校における現場実習の取り組み— より

埼玉・大宮工、吉城 守

8. 構造分科会報告

東京都立葛西工業高等学校 大久保 健

平成12年9月より平成13年8月までの1年間の構造分科会活動状況の概要を報告します。

平成12年10月16日（月）第1・2回委員会（葛西工高）

- ①平成12年度総会（栃木大会）構造分科会報告
- ②現行教科書改訂について
 - 1) 建築基準法施行令の改正に伴う内容の改正
 - 2) 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準」の改正を構造分科会の委員で行う。
- ③平成13年度総会（青森大会）について
- ④平成13年度 夏期研修協議会（構造分科会）
構造設計ソフト活用研修会の計画
- ⑤平成12年度 構造分科会年間計画について

平成12年12月16日（月）第3回委員会（安田学園高）

- ①平成13年度総会（青森大会）について
全体テーマ 21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—
- ②平成13年度 夏期研究協議会（構造分科会）
構造設計計算プログラムの活用実習会 H13. 8. 7～8
- ③平成13年度 構造分科会年間計画について
- ④各校の教育課程を持ち寄り検討報告を行う
- ⑤製図コンクール委員会 齊藤・沢野・池上各委員。

平成13年2月2日（金）第4回委員会（市川工高）

- ①平成13年度総会（青森大会）について
全体テーマ 21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—
- ②平成13年度 夏期研究協議会（構造分科会）
構造設計計算プログラムの活用実習会 H13. 8. 7～8
- ③平成13年度 構造分科会年間計画について

平成13年3月6日（火）第5回委員会（蔵前工高）

- ①平成13年度総会（青森大会）について
全体テーマ 21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—
分科会 法改正について、風荷重、性能規定など変更点の資料を持ち寄る。
- ②平成13年度 夏期研究協議会（構造分科会）

平成13年4月26日（木）第6回委員会（葛西工高）

- ①平成13年度総会（青森大会）について

全体テーマ 21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—
建築基準法改正に伴う改正点の報告

限界耐力法の計算について	益野
積雪・風荷重について	池上
許容応力度の求め方	
鋼材	榎本・大久保
木材	沢野
コンクリート	青柳
現行教科書の改正点	松井

で検討次回までに持ち寄る。

②平成13年度 夏期研究協議会（構造分科会）

構造設計計算プログラムの活用実習会 H13. 8. 7～8

③委員対象事前講習会の件

平成13年5月23日（木）第7・8回委員会（葛西工高）

①平成13年度総会（青森大会）について

全体テーマ 21世紀を拓く建築教育—高校建築教育再構築への取り組み—
建築基準法改正に伴う改正点の報告

限界耐力法の計算について	益野
積雪・風荷重について	池上
許容応力度の求め方	
現行教科書の改正点	松井

日程確認、総会役割分担を決める。

②平成13年度 夏期研究協議会（構造分科会）

構造設計計算プログラムの活用実習会 H13. 8. 7～8

③委員対象事前講習会

日時 H13. 7. 6（金）10：00～16：00

場所 葛西工 CAD室

平成13年度 青森大会・構造分科会の報告

構造分科会テーマ

1. 法規改正のポイント（蔵前工定 池上委員）

積雪荷重・風圧力の改正の趣旨、旧規定の問題点について報告

2. 性能規定化と建築基準法の改正に伴う現行教科書の改正点と限界耐力法について
（仙台第二工 益野委員）

性能規定化の歴史、仕様規定と性能規定の違い。限界耐力法は保有水平耐力の考え方をさらに進めて塑性変形まで考慮して壊れる状態まで明確にした計算である

等の報告。

3. 「建築構造設計」教科書改訂の概要について（蔵前工 松井委員）

各委員から報告しました。

北海道建築教育研究会専門委員会の札幌工業高校の高崎先生より生徒の実態調査の報告がありました。

その後、参加された各校の先生方より昨年のテーマである構造、構造設計の教え方、生徒の実態など意見交換がありました。

平成13年度 夏期研究協議会（構造分科会）の報告

今年度は、構造分科会で構造計算プログラムの活用実習会とし2日間にわたり、53名の各地の先生方の参加を得て葛西工業高等学校で開催しました。内容は構造計算ソフトウェア「BUS-2.5」を利用して、建築設計製図教科書製図例8商店設計の構造計算を題材に実際のモデル化と計算方法について体験しました。

第1日目 8月7日（火）

受付 9:00～9:30 玄関（EVホール前）1F

1. 開会式 9:30～10:30 設計製図室（CAD）4F

1) 開会の言葉

2) 会長挨拶

東日本建築教育研究会会長

都立墨田工業高等学校校長

原田 昭

3) 開催校 校長挨拶 都立葛西工業高等学校校長 木暮 守雄

4) 日程概要説明 構造分科会主査 都立葛西工業高校 大久保 健

2. 構造計算用ソフトウェア「BUS-2.5」を用いた構造設計 10:30～12:00

1) 設計概要説明

2) BUS-2.5 for Windows 準備計算 1

3. 昼食 12:00～13:00 会議室 1F

4. 構造計算用ソフトウェア「BUS-2.5」を用いた構造設計 13:00～17:00

1) BUS-2.5 for Windows 準備計算 2

5. 教育懇談会

第2日目 8月8日（水）

受付 9:00～ 設計製図室（CAD）4F

1. 構造計算用ソフトウェア「BUS-2.5」を用いた構造設計 9:00～11:45

1) BUS-2.5 for Windows 応力計算、断面計算、プリンタ出力

2. 質疑応答 11:45～12:00

3. 昼食 12:00～13:00 会議室 1F

4. 研究協議 13:00～14:00 会議室 1F

1) 選択建築構造設計の実例報告

東京都立葛西工業高校教諭

沢野 茂

2) 法改正のポイント

東京都立蔵前工業高校教諭

池上 信幸

5. 質疑応答

6. 閉会式 14:00~14:15

閉会の言葉

東日本建築教育研究会副会長

東京都立蔵前工業高等学校教諭

松井 貞二

構造分科会では昨年4月と今年7月に今回研究協議のための研修会を行い準備をしてきました。参加された先生方は今回の実習を生かし、建築構造設計・課題研究へ活用していただければ構造分科会としまして、幸せです。

今回の夏期研究協議会の開催にあたり(株)構造システム、講師北野様、企画計画から大変お世話になりました村瀬様、川辺様をはじめスタッフの方々に御礼申し上げます。また開催校の葛西工業高校の先生方のご協力有り難うございました。



9. 施工分科会報告

日本工業大学付属東京工業高等学校 内藤美雪丸

施工分科会は、年間4回の分科会を委員の選出校を順次会場校として開催しています。他校の施設を見学し、生徒の作品を手にし指導法の工夫をかいま見ることにより、新たな発見があり参考になる点が沢山あります。

教員同志が交流することが研究を進め、会の発展につながると考えます。

今回は平成12年9月から平成13年8月までの1年間の活動状況と、第51回青森大会研究協議会の報告をいたします。

平成12年1月26日 平成12年度第3回委員会（神奈川県立神奈川工高）

1) 理事会の報告

青森大会の実施要綱の説明

13年度の共通テーマを確認

ものづくりコンテストの実施に関して

2) 13年度の施工分科会の研究内容の検討

平成13年3月24日 平成12年度第4回委員会（東京工学院専門学校）

1) 報告

2) 施工分科会研究内容の検討

木造軸組の建方実習の実践例として何回も繰り返して使用出来る教材の作成例
学生によりログハウスを設計、施工し実習教育を行っている東京工学院専門学校カリキュラムの視察

平成13年4月23日 平成13年度第1回委員会（日本工業大学付属東京工高）

1) 報告

2) 施工分科会研究内容の再検討

ものづくりコンテストの取組について

平成13年6月18日 平成13年度第2回委員会（安田学園高等学校）

1) 報告

2) 青森大会での施工分科会の運営方法の検討

青森大会の配付資料の準備

平成13年7月9日 平成13年度第3回委員会（日本工業大学附属東京工高）

1) 青森大会の配付資料の作成、青森へ発送

平成13年7月26日 青森大会

施工分科会研究協議会の報告（出席27名）

すでに加工済の部材を繰り返し使用する木構造軸組の建方実習の実践例

木構造の基本を学ぶことは建築の勉強をするうえで大変重要であると考えます。部材名称を覚え、仕口 継ぎ手を理解することは必須である。

理解するために体を動かし体験する。いわゆる体で覚えることが、興味関心を高めるうえでも効果が大きいとおもわれます。

又、安全作業に関する理解も同時に学習できます。

4校の実例をあげて、担当された先生方にそれぞれの工夫点を紹介していただいた。

3校はすでに加工されている部材を使用して建方、解体の実習を行っている。

1校については毎年プレカットの機械を使用して新しく1棟分製作している。

紹介後に参加された先生方よりご意見を伺った。

質問

毎年建方、解体を繰り返しているうちに仕口、継ぎ手が傷むがその補修は何時どの様に行っているのか

A校—授業時間内で教員と生徒で行う

B校—放課後に教員で行う

C校—大工に依頼している

D校—毎年新しく製作しているので必要ない

建方の際に建築金物はどの程度使用しているか

各校とも羽子板ボルト、短冊金物を使用

基礎はどの様にしているか

2校はブロックで布基礎を製作 2校は基礎無し（実習室の床上に建てる）

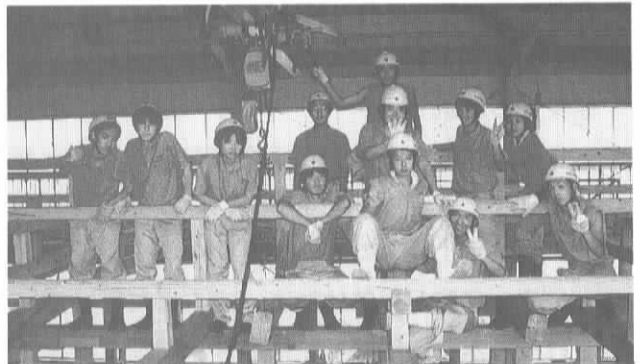
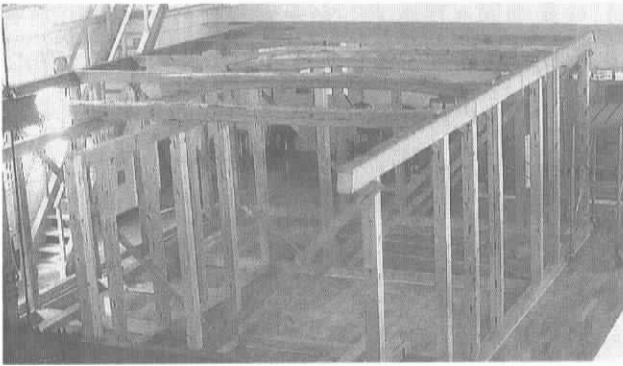
他校での取組

E校—以前、55万円の予算がつきプレカットで2間×3間を製作した。部材名称を覚える上で効果があった。

F校—大工経験の有る実習助手の先生が製作し、10年以上使用している。

G校—基礎から部材加工、建方まで行っている。

H校—木構造に関しては継ぎ手の加工のみ行っている。



10. 製図コンクール運営委員会 (第19回 審査結果報告)

関東第一高等学校 塩澤 泰

第19回（平成12年度）製図コンクールには、会員校および、会員以外の諸先生方のご協力を得て、優秀な作品を多数応募いただき、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

尚、今年度（平成13年度）よりCAD製図の作品募集も行います。手書き製図同様、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

1. 応募校数

76校（全日制70校、定時制6校）

東日本（会員校） 全日制64校 定時制6校

西日本（会員校外） 全日制6校 定時制0校

2. 応募作品数

課題	学校数・作品数			全日制・定時制の別			
	東	西	計	全	定	全	定
課題 1	61校	4校	118点	57校	4校	111点	7点
			7点				0点
課題 2	47校	5校	89点	46校	1校	88点	1点
			10点				0点
課題 3	42校	4校	74点	39校	3校	70点	4点
			8点				0点
計	306点（東 281点・西 25点）						

3. 各課題応募作品数・学校数

	課題 1	課題 2	課題 3
1 点	5 校	5 校	10 校
2 点	60 校	47 校	36 校

4. 校内作品審査数の総計

	課題 1	課題 2	課題 3
東日本	2,184点	1,388点	1,120点
西日本	47点	68点	35点
計	2,231点	1,456点	1,155点

5. 都道府県別学校数・応募数

都道府県会員校数		課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	18(5)	1	2	0	0	0	0
2 青 森	7	1	2	0	0	1	2
3 岩 手	4	3	6	2	4	2	3
4 宮 城	4(1)	1	2	1	2	1	2
5 秋 田	6	1	2	1	2	2	4
6 山 形	4	1	2	2	4	0	0
7 福 島	8(1)	3	6	2	4	0	0
8 栃 木	8(1)	4	7	4	6	4	7
9 群 馬	8(2)	3(1)	6(2)	3(1)	7(1)	0(1)	0(1)
10 埼 玉	6(1)	5	9	4	8	4	6
11 茨 城	5	1	2	1	2	2	3
12 千 葉	7(1)	3	6	3	5	2	4
13 東 京	13(3)	8(1)	16(2)	7	13	6(1)	9(1)
14 神奈川	11(4)	2	4	1	2	3	6
15 山 梨	4(1)	2	3	2	4	2	4
16 新 潟	4	1	2	0	0	0	0
17 長 野	5(1)	3	6	2	4	2	4
18 富 山	2	1	2	0	0	0	0
19 石 川	5(1)	1	2	0	0	1	2
20 福 井	2	0	0	0	0	0	0
21 静 岡	9(2)	2(1)	4(1)	1	2	0(1)	0(1)
22 愛 知	9(1)	8(1)	15(1)	4	8	5	9
23 岐 阜	7	6	12	6	12	3	5
計	156	61	118	47	89	42	74
定時制	(25)	(4)	(7)	(1)	(1)	(3)	(4)
24 西日本	110	4	7	5	10	4	8
広島・愛媛・兵庫・三重							
合 計		65(4)	125(7)	52(1)	99(1)	46(3)	82(4)

() 内の数字は定時制

6. コンクール入賞者一覧表

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金 賞	飯田長姫高等学校 片桐 昌洋	田無工業高等学校 松田 治	松山工業高等学校 春田 敏之
銀 賞	豊橋工業高等学校 古井戸 綾 飯田長姫高等学校 遠山 和也 高崎工業高等学校 齋藤 雅祥	兵庫工業高等学校 木下 麻美 松山聖陵高等学校 橋本 卓 飯田長姫高等学校 遠山 恵三	松山聖陵高等学校 吉田 竜也 可児工業高等学校 石川 佳也 向の岡工業高等学校 荘司 祐一
銅 賞	関東第一高等学校 江面那津樹 高崎工業高等学校 関 靖之 郡山北工業高等学校 佐藤 一紀 宇都宮工業高等学校 久野 俊一 日本工業大学付属東京工業高等学校 中嶋 健二 田無工業高等学校 森屋 航 久慈工業高等学校 障子上文晃 珠洲実業高等学校 池田 諭志 田無工業高等学校 小野 仁義 鶴見工業高等学校 原田麻菜美	松山工業高等学校 今村 明秀 宇都宮工業高等学校 中村 恵理 小山北高等学校 荒木 誠一 武蔵越生高等学校 鹿倉 三裕 安田学園高等学校 鈴木 徹 神奈川工業高等学校 渡邊 洋士 兵庫工業高等学校 新田 優子 松山工業高等学校 藤原 直子 池田工業高等学校 八木沙代子 日本工業大学付属東京工業高等学校 大野 高生	甲府工業高等学校 武井 士 日本工業大学付属東京工業高等学校 佐々木浩司 川越工業高等学校 田中 宏志 市川工業高等学校 飯岡 哲也 松山工業高等学校 三馬 慶之 日本工業大学付属東京工業高等学校 石井 啓介 神奈川工業高等学校 吉川 恒 真岡工業高等学校 山田 寛子 可児工業高等学校 萩野谷奈月

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
奨励賞	沼津工業高等学校 定時制 中野 賢一		藏前工業高等学校 定時制 正木 久恵 仙台工業高等学校 我妻 美桂
入 選	名古屋工業高等学校 椎葉 正樹 可児工業高等学校 林 秀洋 名古屋工業高等学校 小林 淳 熊谷工業高等学校 武田 彩香 池田工業高等学校 曾根原嘉之 神奈川工業高等学校 中村 淳子 那須清峰高等学校 菊池 麻美 可児工業高等学校 鈴木 悠樹 珠洲実業高等学校 坂口 貴紀	池田工業高等学校 松本 和久 飯田長姫高等学校 原 聖太 真岡工業高等学校 小窪 裕子 福島工業高等学校 四柳 知子 久慈工業高等学校 日向ひとみ 一宮工業高等学校 一柳 明宏 豊橋工業高等学校 保木井浩行 古川工業高等学校 佐々木智子 武蔵越生高等学校 須長 拓也 碧南工業高等学校 都築勇一郎 高崎工業高等学校 川野 昭 高崎工業高等学校 定時制 原澤 芳一 京葉工業高等学校 狩野 俊史 福島工業高等学校 加藤 省吾 前橋工業高等学校 黒澤 麻美 前橋工業高等学校 森村 雄一	真岡工業高等学校 橋本 隼人 神奈川工業高等学校 幸田 桂子 半田工業高等学校 鈴木 啓子

平成12年度 第5回CAD作品展入選一覧

製図コンクール運営委員会

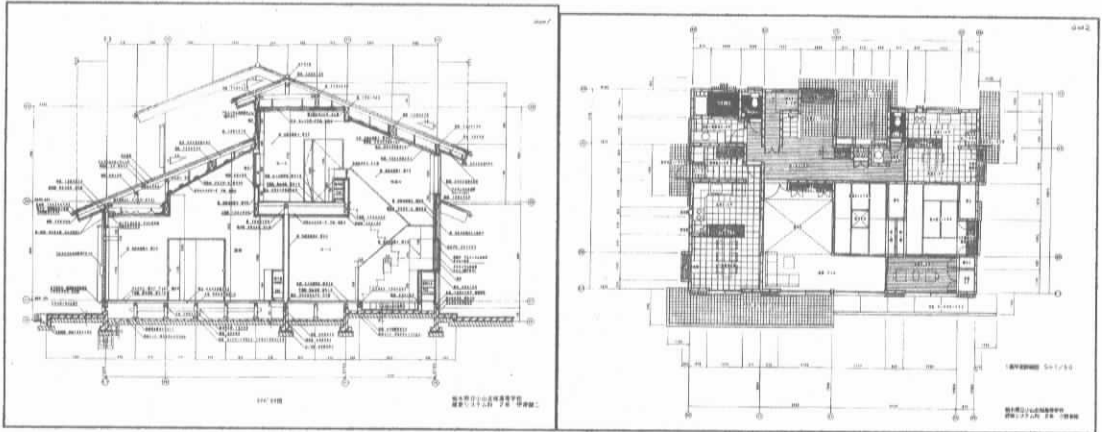
協賛：制構造システム、制構造システム東京販売、制構造システム大阪販売

学校名、科/担当	賞	氏名/学年	作品名	科目	期間	コメント備考/使用ソフト
栃木県立小北校高 建築システム科 湯本実成	ディテール賞	伊澤雄二 / 2	製図例 3-6 断面詳細 描写	CAD 実習	00.04-07 3ヶ月	手書き図面をCAD化。期間内完成を目指す。詳細部の寸法を調べた。 / M-Drafc V.4
	構造システム賞 ドロージング賞	小野孝徳 / 2	製図例 3-2 平面図描写			
山梨県立甲府工高	バリアフリー研究賞	石井祐介 / 3	バリアフリー住宅	課題	00.05-09 4ヶ月 00.07-09 3ヶ月	バリアフリーのプランニングを行った。/ JW_CAD, Clif-Architect5.0
	プランニング賞	古屋恵子 / 3	2世帯住宅			
群馬県立前橋工高 建築科	ドロージング賞	河合美奈 / 3	幼稚園の設計	製図	00.07-10 3ヶ月	第37回六枚建築展出品。地元のグリーンホームをモチーフとした。着色仕上げ。/ JW_CAD, sh270
	ドロージング賞	蜂巣良太 / 3				3次元の立ち上げに苦勞した。グラディエーションの着色とした。
安田学園高 建築科	ドロージング賞	坂入 誠 / 3	落水荘平面図	実習	99.11-00.03 5ヶ月	ライト作品の模写。スケールを当てて各々測りながら作図した。 / JW_CAD
	ドロージング賞	庄司 功 / 2	帝国ホテル正面玄関 平面図			
埼玉県立大宮工高 建築科	ドロージング賞	米沢芳雄 / 3	小倉競馬場	課題	99.12-00.01 2ヶ月	全面改装となった競馬場を平面図から起こす。原図はA1判。 / JW_CAD
	構造システム賞 ドロージング賞	佃 一郎 / 3	PHOTO SHOP 8×10	構基 製図	99.12-00.02 2ヶ月	草計は全員CAD。パースの時曲線部分に苦勞した。 / JW_CAD, JW-WIN 牧場のイメージを生かす。
東京都立葛西工高 建築科	奨励賞	榑崎美佳 / 3	一家団らん! みかちゃんの家	課外	一週間	1階は一家団練。2階はプライベートをテーマにした。中庭と吹き抜けに工夫した。/ ARCHITREND21 V3 楽器を扱うスタジオを計画。
	奨励賞	藤枝健二 / 3	趣味の家	CAD	3日間	
愛知県立豊橋工高 建築科	ドラフティング賞	山内弘一 / 3	木造2階建専用住宅	課題	00.05-10 5ヶ月	製図コンクール課題3をCADで描く。図面配置に苦勞した。和室の断面を細かく書いた。立面の窓を部品化した。/ JW_CAD
	プランニング賞	森田真紀子 / 3				広い空間となるよう工夫した。ハッチングでレンガ模様を描き時間短縮。
関東第一高 建築科デザインコース	ドロージング賞	三上光雄 / 2	製図コンクール 課題2	製図	00.05-11 4ヶ月	製図コンクール課題2をCADで着色表現。/ JW_CAD, sh32
	奨励賞	唐井勇人 / 2	木造住宅*			製図コンクール課題2をCADで書く。
武蔵越生高 建築科	ドロージング賞	寺田新哉 / 3	木造住宅*		00.09-10 1ヶ月	*：建築講座A(デザインコース)。専用CADなのでプランニングを重視した。/ イーソフト 21 ラーメン構造の理解に時間がかかる。
	奨励賞	吉野宏規 / 3	RC造住宅			
青森県立十和田工高 建築科	CGデザイン賞	伊藤 雅 他3名 / 3	人にやさしい住宅	課題	00.04-09 6ヶ月 00.04-10 7ヶ月	バリアフリーと家族団らんを目指す。1つの図面を複数名が同時に作図した。CG操作を身につけた。/ MicroGDSPro.V5.1, 3D+ホームデザイン デザイン デザイン
	アーバンデザイン賞	小林 光 他3名 / 3	商店街活性化のため のモジュール			展示場を見学し研究。高齢者介護を考慮した。着色に苦勞した。 / JW_CAD, M7
広島県立宮島工高 建築科	バリアフリー研究賞	黒木康貴 / 3	これからの住まい～ バリアフリーの家～	課題	00.09-11 3ヶ月	RC造2階建、店舗の自由設計。プレゼンテーションを研究し図面表現に應用した。/ イーソフト 11 V5
	ビジュアルデザイン賞	飯岡哲也 / 3	Dooh(カジュアルシ ョップ)	実習 課題	00.05-06 1ヶ月 99.10-00.02 4ヶ月	卒業設計として、夏休みに実際の建物を調査し、図書館機能に適した動線計画と環境との一体性に配慮した。総合的な建築設計の楽しさを体験した。
菊池貞介、大久保 亘	ディプロマデザイン賞	森達義行 / 3, 卒	LIBRALY(図書館)			

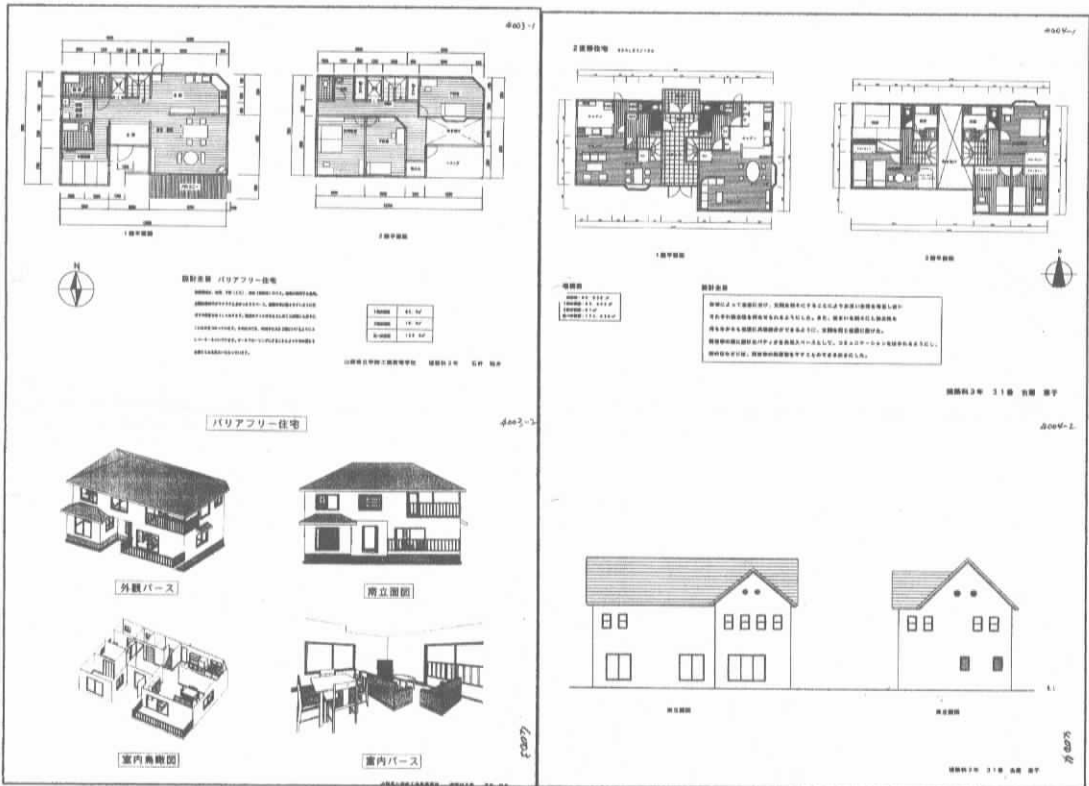
13校 (順不同、敬称略)

24作品

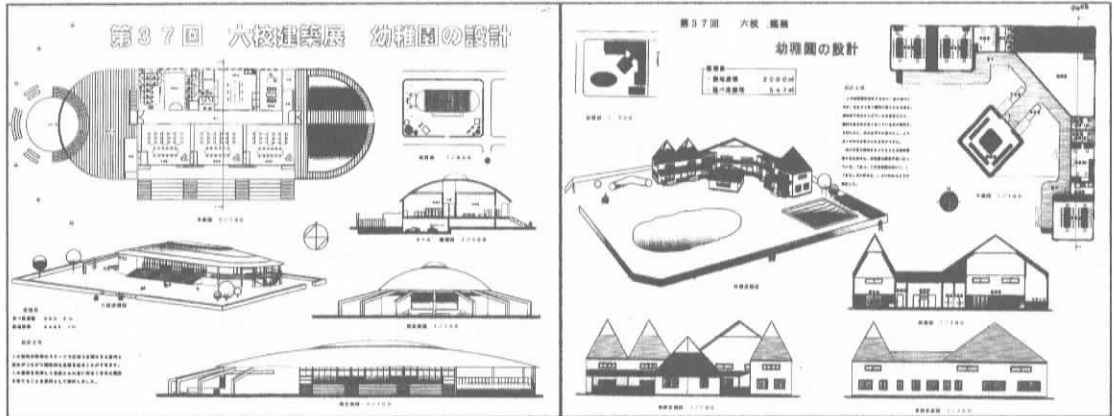
◆ 平成12年度 CAD作品展より(抜粋)



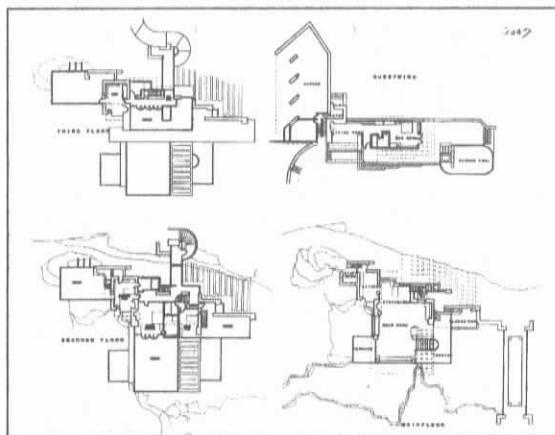
左：伊澤健二（小山北桜）「断面詳細図模写」ディテール賞，構造システム賞
 右：小野孝徳（小山北桜）「平面図模写」ドローイング賞



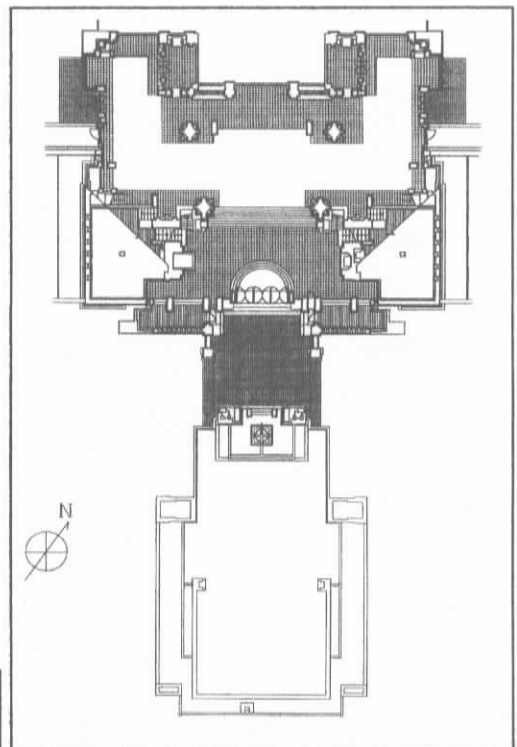
左：石井祐介（甲府工）「バリアフリー住宅」バリアフリー研究賞
 右：古屋恵子（甲府工）「二世帯住宅」プランニング賞



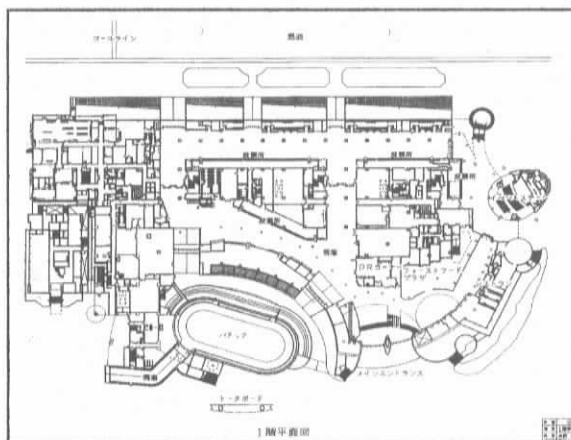
左：河合美奈（前橋工）「幼稚園」ドローイング賞
 右：蜂巢良太（前橋工）「幼稚園」ドローイング賞



上：坂入 誠（安田学園）「落水荘平面」
 ドローイング賞
 右：庄司 功（安田学園）「帝国ホテル平面図」
 ドローイング賞

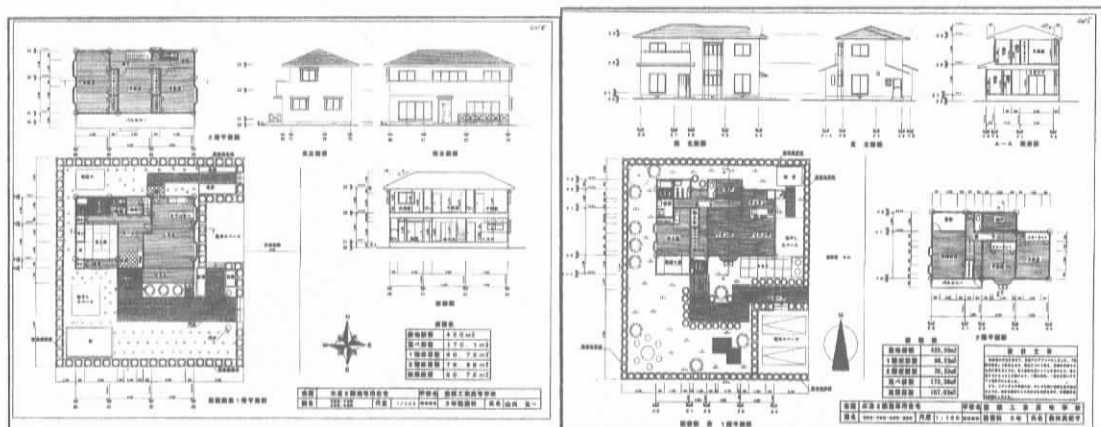


左：米沢芳雄（大宮工）
 「小倉競馬場」
 ドローイング賞，
 構造システム大阪販売賞

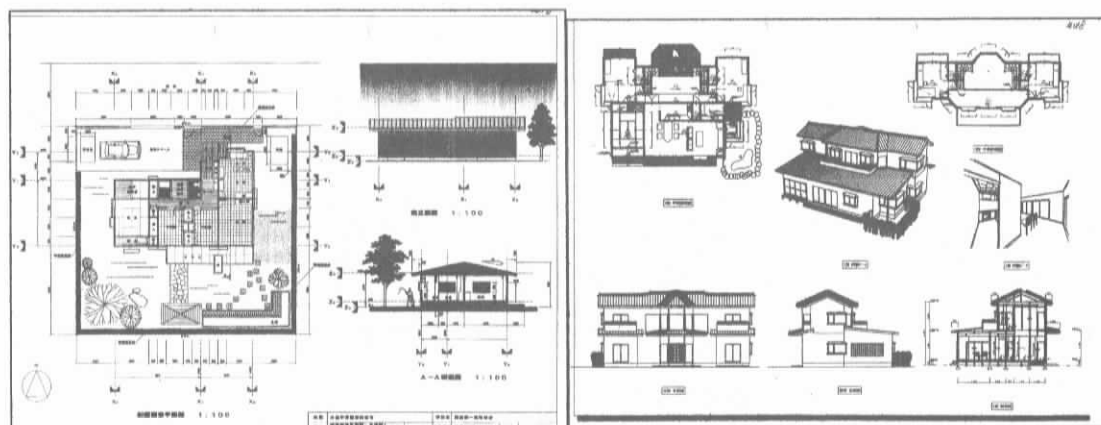




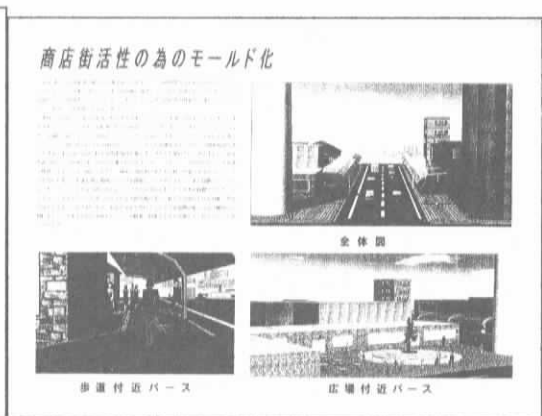
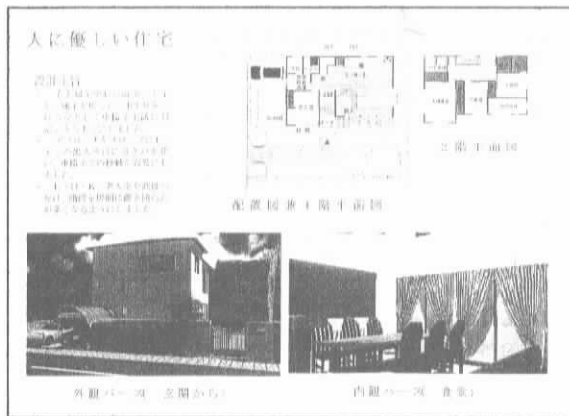
左：佃 一郎（松山聖陵）「PHOTO SHOP」ドローイング賞，構造システム東京販売賞
 右：隅田匡史（松山聖陵）「Café Plaza Pasture」デザイン賞



左：山内弘一（豊橋工）「木造二階建専用住宅」ドラフティング賞
 右：森田真紀子（豊橋工）「木造二階建専用住宅」プランニング賞



左：三上光雄（関東第一高）「製図コンクール課題2」ドローイング賞
 右：寺田寿哉（武蔵越生高）「木造住宅」ドローイング賞



左：伊藤 穰 他3名（十和田工）「人に優しい住宅」CGデザイン賞

右：小林 光 他3名（十和田工）「商店街活性化のためのモールド化」アーバンデザイン賞



左：黒木康貴（宮島工）

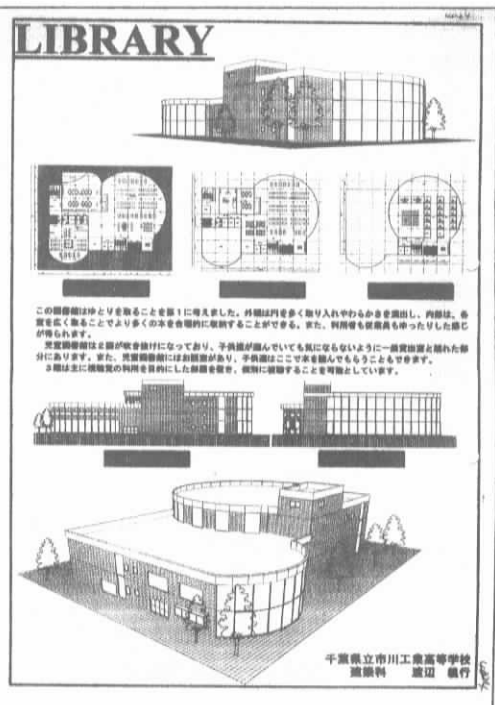
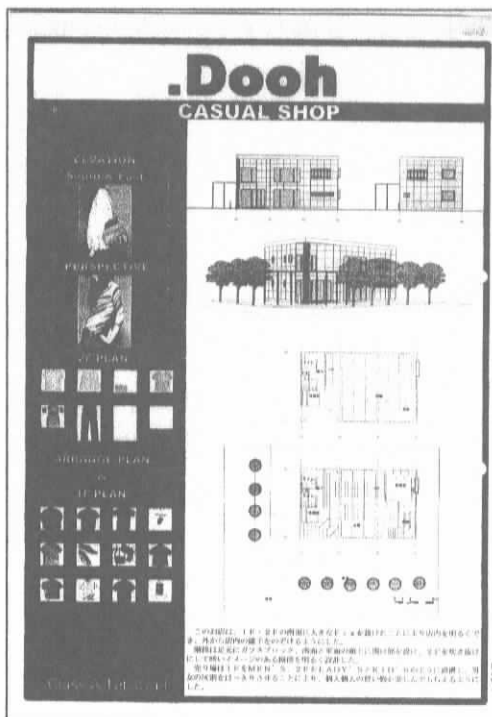
「これからの住まい

～バリアフリーの家～

バリアフリー研究賞

左下：飯岡哲也（市川工）「Dooh（カジュアルショップ）」ビジュアルデザイン賞

右下：渡邊義行（市川工）「LIBRARY」ディプロマデザイン賞



7. 審査講評

審査は課題ごとにチェックポイントを定め、減点方式により複写図の表題欄をカットして、厳正かつ公平に実施しました。課題別の講評は、以下の通りです。

課題1 軒先マワリ詳細図

課題1は、参考図を製図の基本に従って、忠実に模写するものであり、全体に優劣のつけがたい作品が多く見受けられました。

- ・全体を通して、線の太さの使い分け、寸法まちがい、記入もれなどが目立つ
- ・入賞作品の上位では、甲乙つけがたい作品がある
- ・書いた図面のチェック法などの指導もしてもらいたい

課題2 木造平家建専用住宅

課題2は、参考図を模写する部分と、設計要素と表現力を必要とする部分の内容であり、断面図の表示内容と造園計画の表現力が入賞のポイントになりました。

- ・造園計画に変化がなく、ただ木・池・テラスが置いてあるだけのものが多い
- ・庭に出て見る池や、各部屋からみている池などのイメージがとらえにくいものが多い
- ・動線を考慮した計画をしてもらいたい
- ・昨年度の課題別講評が生かされていないものが多いので、必ず目を通してもらいたい

課題3 木造2階建専用住宅

課題3は、設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力など、トータルなもので審査され、入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが優先されました。

- ・昨年度に比べ傑出した作品が少なく、審査が難しかった
- ・複雑な形態を追いながら、練り切れていないものが多い
- ・今年度は、ミスの少ない基本を生かした作品が上位に入賞した
- ・上位入賞作品と言えども、図面が単調なものも見受けられた

8. 第19回（平成12年度）審査委員

古賀 昌之（墨田工）	角田 勝男（神奈川工）
塩澤 泰（関東第一）	金井 孝雄（高崎工定）
福島 勝（日工大付東京工）	諏佐 真一（小石川工定）
菊池 貞介（市川工）	筒井 斉（向の岡工）
橋本 政美（昭和第一学園）	遠藤 悟（田無工）
加倉井砂男（敬愛学園）	吉城 守（大宮工）
岡田 幸雄（小山北桜）	大間 俊彦（関東第一）

岩上 成輝 (川崎総合科学)

沢野 茂 (田無工)

斉藤 延夫 (宇都宮工)

網中 正仁 (桐生工)

新井 澄江 (田無工)

池上 信幸 (蔵前工定)

飴谷 知久 (安田学園)

小嶋 計一 (宇都宮工)

11. 資格取得推進委員会報告

埼玉県立大宮工業高等学校 長島 佳久

1 本年度（平成13年度）「建築施工技術者試験」の試験は、12月16日（日）です

「建築施工技術者試験」も今年度で第6回目を迎えますが、昨年度は建築で初めて選択式の問題が導入されたこともあってか、平均して60%近くと全国的に合格率の上昇が見られました。これまでも、一部の先生方からは、もう少し合格率が上がらないかのご意見がございましたが、この程度の合格率ならば「少し努力すれば何とかなる」という感触を生徒に持たせることができるのではと思っています。

2 受験準備への支援

今年度も（財）地域開発研究所建築施工管理技術研究会より、受験用テキストとして「平成13年度版建築施工技術者試験とその解説」の無償提供をいただきました。なお、各学校への発送は昨年と同じく9月以降とさせていただきますので御了解ください。

3 大学等へ進学した生徒の「建築施工技術者試験合格」の扱いについて

「建築施工技術者試験」に合格し、翌年、大学へ進学した卒業生等について、大学卒業後、1年間の実務経験の後「2級建築施工管理技術検定試験」が受験可能となりますが、高校在学中に合格した「建築施工技術者試験」については、2級の試験を受ける際に「建築施工技術者試験」の合格の効力が発揮され、筆記試験が2科目免除となります。大学へ進学した生徒の扱いは、そういうことだそうですので、もし卒業生から問い合わせがありましたらその旨ご回答いただければと思います。また、在校生の受験の際にもご指導いただければと思います。

4 「2級建築施工管理技術検定試験」合格者の追跡アンケート調査報告書について

標記の追跡アンケートについては、昨年度、先生方に多大なる御協力をいただきながら実施してきたところですが、その結果報告書を過日の青森大会において配布させていただきました。詳しくは、そちらの報告書を読んでいただければと思いますが、昨年度、「2級建築施工管理技術検定試験」に合格した卒業生のうち80%以上のものが、在学中に「建築施工技術者試験」に合格していたことが役に立ったと評価しています。これらの資格に関しては、まだまだ認知度や報酬についての問題等あるとは思いますが、「建築施工技術者試験」が建築系の学科の卒業生にとって有効な資格であることは、これによって実証されたと思っています。先生方におかれましてはこうした状況を踏まえた上で、今後とも「建築施工技術者試験」の普及と生徒への御指導に、是非、御協力いただければと思います。

5 「高校建築系学科の資格取得推奨プラン」の配布について

過日の青森大会におきまして「高校建築系学科の資格取得推奨プラン」と題したプリ

ントを配布させていただきました。これは、「建築施工技術者試験」以外にも最近は様々な資格が設置されていることを踏まえ、生徒の在学中は勿論、卒業後の資格取得につきましても建築系の卒業生として取得して欲しい資格の例を委員会として上げてみた次第です。なお、これはあくまでも推奨プランということで、生徒の進路指導や生徒募集の際の中学生への説明資料として御活用いただければと思います。

12. 北海道の高等学校における建築教育の概要

北海道函館工業高等学校 建築科 対馬 誠

現在北海道には建築系の学科を有する高校は13校あり、各校が連携をとりながら建築教育を行っております。南の函館工業高校から北の名寄光凌高校や東の釧路工業高校までは列車を乗り継いで8時間ほどかかりますが、理事会、研究会等では担当校に年4回ほど各校の代表が集まり協議を行っております。平成13年度と14年度は函館工業高校が道内の建築系高校のまとめ役になっておりますので、北海道の建築教育の概要について記述させていただきます。

1. 建築科設置校

	クラス	生徒数		教員数	創立
札幌工業高等学校	全日2間口	男174	女50	11	大正5年
	定時1間口	男68	女8	6	
函館工業高等学校	全日1間口	男54	女63	8	大正10年
	定時1間口	男68	女12	6	
小樽工業高等学校	全日1間口	男86	女29	6	昭和14年
	定時1間口	男28	女9	5	
室蘭工業高等学校	全日1間口	男86	女24	6	昭和16年
苫小牧工業高等学校 (設備工業科)	全日1間口	男85	女34	6	大正12年
	全日1間口	男94	女25	6	
	定時1間口	男45	女11	7	
美唄工業高等学校	全日1間口	男62	女9	6	昭和16年
旭川工業高等学校	全日1間口	男93	女26	6	昭和16年
	定時1間口	男35	女8	6	
帯広工業高等学校	全日1間口	男69	女50	6	昭和39年
釧路工業高等学校	全日1間口	男94	女18	6	昭和14年
	<建築システム科>				昭和38年
名寄光凌高等学校	全日1間口	男76	女8	7	
	<建設科>				平成10年
留萌千望高等学校	全日1間口	男101	女3	9	
	<建設科>				昭和38年
北見工業高等学校	全日1間口	男102	女10	8	
	<建設科>				昭和38年
旭川実業高等学校	全日1間口	男121	女6	5	昭和35年

2. 北海道高等学校建築教育研究会の活動

<理事会（総会）> 5月 出席者約30名 会場 東日本建築教育研究会の事務局校
各校科長が集まり事業報告、事業計画等の協議を行う。

<研究協議会> 10月 出席者約30名

各校代表者が集まり、見学会、研究協議等を行う。

平成12年度 協議題 建築実習の指導範囲と指導方法について

見学 トヨタ自動車北海道

リサイクルプラザ苫小牧沼ノ端クリーンセンター

平成13年度 協議題 建築製図の指導範囲と指導方法について

見学 公立はこだて未来大学 函館市西部地区歴史的建造物

<常任理事会> 2月 出席者約10名

常任理事校科長（7名）が集まり事業報告、事業計画等の協議を行う。

<建築教育専門委員会> 年2～3回開催

専門委員7名により、北海道の建築教育に関する各種の研究、調査を行う。

平成12～13年度の活動 出席者7名

- ・建築科1年生への建築に関する実態アンケート調査
- ・建築構造担当教員に対しての教科指導に関するアンケート調査
- ・課題研究、情報技術基礎、実習費、資格等に関するアンケート調査
- ・卒業生の進路に関するアンケート調査

上記のアンケートをまとめ、専門委員で協議し、教育行政や関係方面へ働きかけ、教科指導、進路指導等に役立てる。

3. 北海道高等学校工業教育研究集会

建築部会 7月 出席者約30名 会場は全道当番制

夏期休業中、各校代表が当番校に集まり、建築教育に関する研究発表、協議を行う。

<平成12年度研究発表>

- ・各科目の指導や評価の在り方及び事例 旭川工業 和田 博之
- ・生徒の興味・関心・能力・適正や進路等に応じた指導の在り方や事例 旭川工業(定) 松村 康弘
- ・新しい技術に対応した指導事例 美唄工業 高野 修

<平成13年度研究発表>

- ・新学習指導要領への対応 函館工業(定) 有泉 睦夫
- ・時代の変化に対応する工業教育の在り方 釧路工業 佐々木 実
- ・時代の変化に対応する学科の在り方 苫小牧工業 楠 寿徳

平成13年度の研究協議は、新教育課程、インターンシップの取組について話しあわれた。

<新教育課程への取組>

平成15年度からの新教育課程編成に向けて各校検討委員会を設置し話し合いが進められている。週休2日制、単位数縮減の中で総合的学習、選択制、履修修得の分離等で各校が特色のある教育課程編成を目指している。

<インターンシップへの取組>

函館工業高校は戦後まもなくから50年以上、夏期休業中に現場実習を継続している。現在5校程が3日から2週間の日程で現場実習に取り組んでおり、2校が実施に向けて前向きに検討中である。

4. ジュニアオープンデスク 日本建築家協会北海道支部主催

会員建築家の事務所が建築を学ぶ高校生に実習場所を提供することにより、授業で習得できない分野の学習を体験し建築設計活動の理解を深めることを目的に実施している。

登録事務所は、札幌、旭川、帯広、函館、釧路で合計16事務所あり、例年20名程の生徒が主に夏期休業中、1～2週間、事務所の規則に従い実習を行っている。実際の設計事務所で体験実習をすることにより進路や様々な面で成長がみられ、生徒からの評判も上々である。実習後は札幌において和やかな雰囲気の中で報告会を開催している。

5. 卒業設計優秀作品、巡回講演会 日本建築学会北海道支部主催

<卒業設計優秀作品>

- ・11年度金賞 「JR留萌駅前再開発」 留萌千望 八幡 幸男
- ・12年度金賞 「cooperate～動と静の空間～」 札幌工業 江良 万里子

<巡回講演会>

ローテーションで毎年4校ずつ講師の方に道内各校に出向いてもらい、各種建築に関する講演会を開催している。

6. 高校生建築デザインコンクール 北海道建設部、日本建築家協会北海道支部 北海道建築士事務所協会、北海道建築士会主催

このコンクールは、道民に愛され親しまれる公共建築物づくりを進めていくため、21世紀を担う建築技術者となる道内の工業高校に在籍する生徒から夢のあるユニークなアイデアを募集するものです。最優秀案は提案されたデザインを実施設計に取り込み、実際の建築物として建設されるので生徒も積極的に取り組んでいる。

- ・11年度 課題 酪農地帯の放牧地に建つ牛舎
最優秀賞「北の牛舎」 留萌千望 佐藤 心一
- ・12年度 課題 津軽海峡を望むロマンの丘に建つあずまや（休憩所）
最優秀賞「鳥の丘」 北見工業 左藤 進也 岸井 伸行 亀田 樹理

13. 茨城県の工業高等学校建築教育の現況

土浦工業高等学校 建築科 田中 亨

現在、茨城県内には、建築系の学科がある学校は5校あります。各校のプロフィールと教育内容を簡単に紹介し、本県建築教育の現況報告とします。

○ 茨城県立水戸工業高等学校

本校は、明治42年に『茨城県工業学校』と命名され、茨城県内で唯一の工業高校として吉田ヶ丘に誕生した。

創立92年の歩みの間に、学制改革、学科の新設・改編などさまざまな変遷を経て、現在では6学科を有する大規模な工業高校として県内をリードしてきた。

建築科は各学年1クラス40人編成であり、6人のスタッフで専門教育に尽力している。

建築科の指導方針として

『工業基礎』『実習』等の体験学習を重視し、ものづくり教育を推進する。

『製図』を各教科の集大成と位置づけ、技法はもとより各自の思考を図面・模型化する。

『CAD』により建築空間の知覚能力を伸長する。

『建築施工技術者試験』『危険物取扱者試験』等の資格取得を積極的に推進する。

スペシャリストの育成のために、新教育課程へ向けて努力している。

○ 茨城県立大宮工業高等学校

本校は、昭和49年に、建築科・設備工業科・土木科・工業化学科の4学科の全日制工業高校として創立され、卒業生は3300余名となり、実社会で活躍している。

県の中心、水戸市より北へ20km、近くを久慈川が流れ、かつては古墳があり一騎山と言われ、歴史のある緑豊かな環境に恵まれている。

専門の授業では、社会に出て即戦力となる知識や技術を身につけることに重点を置きインターンシップ（就業体験・学年全員実施）や社会人講師を招いての実習、夏休みに実施される建設現場実習を積極的に授業に取り入れ、体験型の授業展開を多く行なっている。

また、3年次の課題研究では、CADによる自由設計、住宅実物模型（洋室6畳）ログハウス（1坪）の制作、パソコンの組み立て軸組模型の制作等に取り組んできた。将来、建設関連産業で設計・施工・監理等のスペシャリストとして活躍できる人間性豊かな人材を育成し、地域社会のなかで必要とされる、特色ある工業高校づくりを目指している。

○ つくば工科高等学校

本校は、昭和2年筑波実修学校（農学校）として開校し、平成3年から工業学科（電子機械・情報技術科、翌年建築デザイン科）が設置された。さらに平成9年、茨城県立つくば工科高等学校と改称し今日に至っている。現在3学科5クラス（電子機械科1クラス・情報技術科2クラス・建築デザイン科2クラス）である。

建築デザイン科は、3年生で、一般建築を学ぶ建築コースとインテリアを重視して学ぶ

デザインコースに分かれる。また、地元を中心に活躍されている建築士から実務設計をふまえた計画指導を受けたり、芸術家（作品、主に彫刻）に造形実習を指導していただき、創造力を磨いている。

1・2学年は、基本的に週1時間の『総合的な学習の時間』があり、7分野16グループ（グループにより細分化）に分かれて活動している。活動内容には、工業学校の施設設備を生かした『ものづくりグループ』や調査研究をするグループなど様々である。また、課外活動では、各部活動の活躍する中、『ダンボールによるクリスマスツリー』や『ダンボール・ファニチャー』を制作し、地域のイベントにも展示をしている。今年、鈴鹿サーキットで行なわれた『ソーラーカー・レース』でも結果を残した。

○ 茨城県立下館工業高等学校

本校は、昭和37年4月に機械科・電気科・電気通信科の6学級で開校した。その後、昭和38年に電子科新設、電気通信科廃止、平成6年に建設工学科新設、電気科1学級削減を経て、現在4学科6学級である。

学舎は、東に筑波の霊峰を遠望し、西に鬼怒の清流あり、西北に日光那須の連山を望む山紫水明の地にある。教育課程は、普通教科52単位、専門教科37単位で編成されている。

本校建設工学科では、建設に関する幅広い分野の知識と技術を習得させ、土木・建築の企画・計画・設計・施工・監理などの業務に従事する技術者を養成する事を教育目標にしている。また、生徒の能力・適性・興味・関心・進路希望などに応じて2年次より建築系と都市工学（土木）系の類を選択させ、広い視野に立ち、技術の進歩に対応できる実行力と創造力の豊かな技術者を育成することを目指している。

来年で40周年を迎え、施設・設備の一新を図る改築工事が来年度から始まり、21世紀に向けて大きく飛躍しようとしている。

○ 茨城県立土浦工業高等学校

本校は、昭和34年に機械科・電気科の2学科で創立されました。その後、変遷で現在は、機械科・電気科・建築科・土木科・情報技術科の5学科8学級である。

建築科は、昭和43年の学科再編により誕生しました。現在まで約2400余名の卒業生を県内外に送り出している。

本校建築科では、自主自律を基本に、自己開発や自己実現に必要な知識・技術を習得させるとともに、すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の涵養に努め、建築技術者としての必要な資質をつちかうと共に、勤労に対する正しい考え方を養い、協力して責任ある行動をする態度・習慣を育成しています。教育課程の教科指導ばかりでなく、自主的な研究活動の推進、各種製図コンペの積極的参加、資格取得の推進、現場実習の参加等の教育活動にも取り組んでいる。

又、新教育課程に関して、県内の建築系の学校どうして、連携しながら教科研究協議会を開催して情報交換を行なっています。

14. 山梨県の工業高等学校建築教育の現況

北富士工業高等学校 建設科 佐野 喜彦

1 山梨県工業高等学校の建築科（建築インテリア科）の概要

○ 建築科および建築インテリア科の設置年度と特色

甲府工業高等学校 全日制 1クラス 大正10年 建築科設置

☆特色 入学時より大学進学を希望している生徒が多くなっているため、3年次では選択科目を設け、国立大学を含む大学進学への対応と就職希望者への実践的な指導を行なっている。

甲府工業高等学校 定時制 1クラス 昭和32年 建築科設置

1クラス 昭和45年 建築専攻科設置

☆特色 全国的にも公立校では珍しい定時制に2年制の専攻科を併設している。専攻科生は90%以上が企業に就職しながら通学している。本科生は本人に合ったペースでゆっくり進路を決めている。

北富士工業高等学校 全日制 1クラス 昭和46年 建築科設置

☆特色 各種資格取得を奨励し、施工技術者試験や2級大工技能士の課題を実習などの授業に取り入れている。

峡南高等学校 全日制 1クラス 昭和28年 木工建築科設置

〃 30年 建築科設置

平成6年 建築インテリア科に改編

☆特色 建築コースとインテリアコースがあり、普通科目は合同授業を行ない、専門科目はコース別に授業を行なう。

2 建築科および建築インテリア科としての取り組み

建築教育の充実と生徒の興味関心を深めるために研究協議会・製図コンクール・展示会（ものづくり展、住宅フェア展）・現場見学会・インターンシップなどに取り組んでいる。資格取得においては「施工技術者試験」への取り組みとともに、来年度（平成14年度）から県独自で「建築設計製図技能検定試験」を実施し、生徒の建築への興味増進をはかることになっている。また、課題研究・卒業設計等の発表会を行なっている学校もある。（甲府工業高校）

○ 山梨県工業教育部会建築科分科会

峡南高校のインテリアコースも建築科分科会に所属している。

平成13年度建築科分科会において、①新教育課程への対応（総合的学習と課題研究との関連づけ）について ②「建築設計製図技能検定試験」（建築科認定）の実施について ③進路状況について ④東日本建築教育研究会山梨大会についての研究協議

が行なわれた。また、毎年県内の製図コンクール（東日本建築教育研究会製図コンクールと同じ課題）を実施している。

- 産業教育フェア（ものづくり展）・住宅フェア
産業教育フェア（ものづくり展）および住宅フェアに各校から住宅模型や古建築の模型、設計製図作品（手書き・CAD）等を出品した。

- 現場見学会およびインターンシップ
建設業の仕事の理解を深め興味関心を高めるために、山梨県建設業協会の協力と職業安定所主催により現場見学を実施している。また甲府工業高校においては、実習等の時間に近くの現場を見学している。
インターンシップは今年度から実施する学校が多い。北富士工業高校においては1年生全員が実施する。ただし、受け入れの建設関係の企業は少ないために一般企業でのインターンシップが多い。

- 施工技術者試験
各校において受験に向けて課外授業等を行ない、全員受験をはかっている。

- 心豊かな高校教育および先輩に学ぶ等の企画
県教育委員会として「心豊かな高校教育」が推進され、各校において取り組まれている。講師として、設計事務所の方や施工会社の方を依頼することも多く、建築に関する考え方、仕事の心構えや楽しさなどを聞くことができた。
また、進路指導部主催で、「先輩は語る」等の職業講話も実施されている。甲府工業高校においては、大工さん（生徒の保護者）が数回ボランティアで学校に来て大工仕事の指導をしてくれた。

3 建築教育の問題点と今後の展望

山梨県は少子化が進んでおり、また、中学生の進路希望においても普通科希望が強まっている。そのため特に専門高校において、総合学科高校や学校の統廃合が余儀なく迫られている。建築教育においては、その専門性や資格取得の必修科目の必要性（2級建築士等の受験）のゆえに極めて難しい選択をしなければならない。北富士工業高校、峡南高校とも該当校として名前があがっており、まさに具体的な、建築科をどうするかという選択を迫られている現状である。しかも、卒業生の進路決定においては、厳しい不況の中で建設関連の企業の就職が極めて困難である。したがって、履修した専門が活かされず、まったく関係のない一般企業に就職する者が増加している。このような状況の中で、“今後山梨の建築教育をどうしていったらよいか”という大命題に早急に取り組む必要を強く感じている。

15. 静岡県の工業高等学校建築教育の現況

浜松工業高等学校 柳原 正人

東西に長い本県は、東部、中部、西部の3地域に大別される。建築科もそれぞれの地域に全日制2校、定時制1校と均等に設置されている。以下、各校を紹介する。

[修善寺工業高等学校] 全日制：建築科

修善寺工業高等学校は伊豆の狩野川沿いに位置し、機械科・電子機械科・電気科・情報技術科・建築科の5科520余名の生徒を擁している。校章は、近くの天城連山と狩野川の清流を図案化したものである。校訓は「至誠」、信条として「明るく正しく仲良く」を掲げている。

建築科は施工実習室、木造実習室、CAD室等、実習教育のための施設は充実し、特に製図室には88台のトラック型ドラフターを整備するなど、施設の充実を心がけている。

学業の面では資格取得に力を入れながら、情操豊かな人格を持ち、その能力を最大限に発揮できる人材の育成を目指し、各種コンペなどにも積極的に参加している。また、インターンシップを実施し、「物づくり工房」という1軒の家を、地元の業者の協力を仰ぎながら、基礎から生徒自らの手で作りあげるなど、新しい試みも実施している。

[沼津工業高等学校] 全日制：建築科 定時制：建築科

本校は、昭和14年に沼津市の中程にある香貫山の南側の麓に設立された。静岡県東部の工業高校の中心校として、現在、全日制では機械、電気、土木、材料技術、システム化学、建築の7学科を、定時制では機械・電気科、建築科、そして専修コースとして電気科、建築科を有し、多くの先輩が県内外で活躍している。全日制では、平成9年より『くくり募集』『2学期制』『コース制』を実施している。

建築科は特に製図と模型製作に力点をおいて生徒の指導にあたっている。一昨年本学科で初の卒業設計展を沼津駅前のギャラリーで開催したおりに、県知事が来訪され展示した図面や模型を熱心に鑑賞されたり、生徒に質問されたりして、3年生に励ましの言葉をかけていただいた。今後も『不撓』という校訓のもと、人間性溢れる生徒の育成に携わっていきたいと思う。

[静岡工業高等学校] 全日制：建築科 定時制：建築科

1918年の創立以来、本校は大きな岐路に立たされている。校舎の老朽化、そして静岡市と清水市の合併案などに伴い静岡工業高等学校と清水工業高等学校の2校を合わせて総合科学技術高等学校の基本構想が策定委員会で画策され、将来は静岡工業高等学校の名称すら消滅する恐れがでてきている。至れり尽くせりのビジョン、夢のような総合科学技術高校が計画されている。なるほど素晴らしい案ではあるが・・・。

現在は、全日制8科、定時制4科である。建築科の内容はかならずしも誉められるものではなく、下落傾向の景気、就職難に左右されレベルは徐々に落ちつつあるが、建築科職員懸命な陰日向無い指導のおかげで何とか現状維持を保っている。教科指導では、何か

を一生懸命やってみようというスローガンのもとに製図指導に力を注いでいる。生徒には基本的な製図力の向上、やればできるという自信を持たせ、各種コンペにも積極的参加。成果は著しく上がり全国的にも高水準にある。

〔島田工業高等学校〕全日制：建築科

本校は「越すに越されぬ大井川」で有名な大井川のある島田市東部に位置している。昭和38年に機械科・電気科・建設科（建築コース・土木コース）として創立された。昭和42年には、地域の要望に基づき建設科を建築科40名、土木科40名に改編された。「東海道随一の工業高校」を目指した教育指針は現在、1万2千名の卒業生を世に送り出し、各人がそれぞれの分野の第一線で活躍するに至っている。平成10年には、くくり・類系制がスタートし工業Ⅰ類（他4科）と工業Ⅱ類（建築科・都市工学科）の6学科となった。平成11年には校舎改築が始まり、平成13年にはすべての工事が完了した。それに伴い、建築科の設備も充実し、太陽光発電システムを備えた環境実験システムを始め、100tの万能圧縮試験機や木工機械システム、3年間に渡るCAD実習等、建築学の基本の習得と時代のニーズへの対応の両面を目標とした教育内容となっている。

〔浜松工業高等学校〕全日制：建築科 定時制：工業技術Ⅲ科

地場産業である繊維産業の振興を目指して大正4年に設立された染織講習所を元に、大正7年に本校の前身である浜松工業学校は発足した。その後学科改編を繰り返し、現在は全日制8科30クラス、全日制生徒1200名の県内最大規模の工業高校になっている。

建築科は大正13年に設置され、それ以降3000有余の技術者を社会に送り出している。卒業生は静岡県西部地域の建設業界を中心とした各界のリーダーとなっている。

科の教育目標は、「中堅技術者の養成」としている。このため、建築の基礎基本を大切にしながらバランスのとれたカリキュラムを編成するよう心がけ、授業を展開している。

本校には定時制も設置されており、建築教育は工業技術Ⅲ科が担当している。高校卒業生を対象とした専修コースも併置され地域の生涯学習に寄与している。

〔天竜林業高等学校〕全日制：建築デザイン科

大正13年実業補修学校として開校。その後、数回にわたり学校名が改称され、昭和26年現在の校名となる。昭和50年、建築科が新設され、平成5年、学科改善を行い建築デザイン科と科名変更をした。現在は農業2科、工業・商業各1科を置き、植林から流通に至る流れを基幹に「木の文化」の継承と創造を学校目標に掲げ、農業・工業・商業3学科の教育課程が編成されている。また、幅広い産業人の育成を視野に、他科生との交流を図ることを目的に、1・2年次ミックスホームルーム、3年次科別の形態をとっている。

選択科目については、総合選択制を取り入れ、2年次7単位、3年次8単位を科の垣根を取り除いてオープンに履修することが可能である。建築デザイン科では、木構造を中心とした授業の展開およびデザインの授業にデッサンを取り入れていることが特色にあげられる。また、木構造の部分的な実物大実験を各学年の実習で行っていることも特色といえる。

16. 事務局ニュース・報告

- 平成14年度総会・研究協議会（東京大会）について
標記の平成14年度については、東京都で開催します。なお、今回の東京都開催は緊急対応策で、従来の「事務局を東京都、その他の道県で大会を担当する」という原則を変更するものではありません。
- 大会開催都道府県について

年度	13	14	15	16	17	18	19
	青森	*東京	山梨	群馬	岐阜	静岡	岩手
	実施	決定				予定	

現在のところ上記のように開催順を計画しています。各道県会員校の皆様のご理解とご協力の上で円滑な実施を図りたいと考えています。

- 顧問・参与の導入について
会則第7条に定められている「顧問・参与」を今年度より下記のとおり委嘱いたします。
☆顧問：北島敬己、稲見辰夫 ☆参与：佐藤 哲、土田裕康、山崎敏弘
- 法規準備委員会について
法規の改正や新しい法規へ対応すべく委員会創設の準備を進めております。昨年度末に常任理事を通じて準備委員をご推薦いただきありがとうございました。現在、委員会の運営について適宜検討を進めております。
- 賛助会員について
会員名簿記載企業・学校のほか下記のご加入をいただきました。
☆テクノビジョン株式会社（東京都新宿区）
☆日本工学院専門学校（東京都大田区及び八王子市）

連絡

- 本研究会の出版書籍

建築構造図集	実教出版社	¥ 890
新版 建築の基礎問題	市谷出版社	¥1,470
建築施工技術者試験テキスト	実教出版社	¥1,980
建築法規学習ノート	実教出版社	¥1,470

多くの学校に採用され、学習に活用していただくことが、本研究会の収入にもつながります。

- 会員校動静
建築科募集停止及び総合学科建築科目の廃止に伴い下記の3校が平成13年3月31日付で退会し、会員校数は152校となりました。
☆光星学院野辺地西高等学校
☆日本大学東北高等学校
☆福島県立双葉翔陽高等学校
- 全国工業高等学校長協会夏季講習会
平均13年度事業計画のとおり昨年度に引き続き、本年度も2企業と共催で開催します。多くの先生方のご参加をお願いします。
- 50周年記念行事
皆様ご存じのように昨年度栃木大会において記念式典及び記念講演を無事行うことができました。その際、「記念誌・製図コンクール作品集」を作成し参加者に配付するとともに、後日8月21日付で関係者にも発送しました。
- 名簿訂正
P.(3) 誤 90 13-08 都立田無工業高等学校 全 188-0013 田無市向台町 1-9-1
正 90 13-08 都立田無工業高等学校 全 188-0013 西東京市向台町 1-9-1
P.3 誤 倉村正昭
正 吉村正昭

☆事務局は、東京都立墨田工業高等学校が担当しております。研究会 運営につきまして何かお気付きの点がありましたらご連絡ください。

→TEL：03-3631-4928/FAX：03-3846-6683

あとがき

おかげ様にて「建築教育ニュース」2001年号ができました。

教育活動にお忙しい中で、ご執筆いただきました先生方有り難うございました。

2001.11

編集委員会

編 集：編集委員会 鈴木 健（田無工） 古賀昌之（墨田工）
遠藤 勇（日工大付東京工） 大間俊彦（関東第一）
武田明広（市川工） 伊藤和生（葛西工）

発 行：東日本建築教育研究会（代表 原田 昭）

事 務 局：〒135-0004 東京都江東区森下5-1-7 TEL 03-3631-4928
都立 墨田工業高等学校（事務局長 小沢 宏）

編集事務局：〒188-0013 東京都西東京市向台町1-9-1 TEL 0424-64-2225
都立 田無工業高等学校（鈴木 健）